



はじめよう！つづけよう！つながろう！

Sport in Gamagori

# 蒲郡市スポーツ 推進計画

2023 ▶ 2027



## はじめよう！つづけよう！つながろう！ スポーツ in がまごおり

スポーツは、生涯にわたり心身ともに健康で活力のある生活を営むための原動力となるものであります。また、仲間との連帯感や達成感をもたらしたり、多くの人に夢や感動を与えたりするなど、地域の交流と活性化に大きく寄与するものであります。私自身、子ども達のスポーツ活動に長く携わってきた実体験からも、スポーツがまちづくりにもたらすエネルギーは非常に大きなものだと確信しています。



昨今のコロナ禍においては、思う存分にスポーツをする機会が少なくなり、市民の皆様も非常に残念な思いをされたことと思います。そのような中で、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催はスポーツの持つ魅力を改めて世界に発信し、人々の閉そく感を打ち破る新たな希望となるものでした。

本市においても、ウィズコロナ・ポストコロナに向け、様々なスポーツ活動が再始動を始めたところであり、スポーツによるこれからの飛躍を期待しています。

さて、本計画は「はじめよう！つづけよう！つながろう！ スポーツ in がまごおり」を合言葉に、市民の皆様、関係団体、行政が一緒に進めていく施策をまとめたものであります。「蒲郡らしさ」を生かしながら、体力や障がいの有無に関わらず、子どもからお年寄りまですべての市民が、スポーツをはじめ、つづけていくことができるよう、また、スポーツを通じて人と人がつながっていくことができるような環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会委員の皆様をはじめ、アンケートにご協力をいただきました多くの市民の皆様、並びにスポーツ関係団体の皆様に心より感謝を申し上げます。

令和5年3月

蒲郡市長 鈴木 寿明

## スポーツの力でまち中に元気な声援を

蒲郡市は緑の山々と美しい海、豊かな自然に恵まれた三河湾国定公園の中心地にあり、生涯スポーツをはじめ、競技スポーツやレジャースポーツにとっても、素晴らしい環境が整っています。また、2026年のアジア競技大会において蒲郡市がセーリングの競技会場となる予定であり、今後の盛り上がりを期待しています。

一方で成人のスポーツ実施率や子どもの体力テストの結果は、全国と比べ低い水準にあり、市民の皆様が健康で活力あふれる生活を送っていくには、スポーツ習慣の定着化が大変重要なものだと考えています。



今回策定しました蒲郡市スポーツ推進計画では、市民一人ひとりがスポーツをはじめ、つづけていき、スポーツを通じて人と人がつながっていくことにより、まち中に元気な声援が響きあう蒲郡にしていくことを目指し、基本理念を「はじめよう！つづけよう！つながろう！スポーツ in がまごおり」といたしました。

この基本理念の下、「スポーツに親しむ機会の創出」、「スポーツをとりまく環境の充実」及び「スポーツを通じたまちの魅力の創造」の3つの基本目標を立てました。スポーツの力で蒲郡を活力あるまちとしていくため、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」、スポーツで「つながる」といった視点から、だれもがスポーツに親しむことができ、健康でこころ豊かに過ごすことができるよう、また、スポーツを通じて地域にいきいきとした交流が広がるよう、恵まれた環境を生かした「蒲郡らしい」スポーツライフの推進とスポーツ環境の整備を進めていきます。

最後に、計画の策定にあたり、様々なご協力をいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和5年3月

蒲郡市教育委員会教育長 壁谷 幹朗

## 目次

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1 計画策定の趣旨・背景 .....	1
2 スポーツ推進をめぐる国・県の動向.....	3
3 本計画におけるスポーツの定義 .....	6
4 計画の位置づけ・期間.....	7
5 SDGs との関係 .....	7
6 計画の策定体制.....	8
第2章 蒲郡市の現状と課題 .....	9
1 蒲郡市のスポーツをめぐる現状 .....	9
2 市民アンケート調査結果からみる現状 .....	16
3 スポーツ団体ヒアリング結果からみる現状.....	26
4 蒲郡市の現状と課題のまとめ .....	30
第3章 計画の基本的な考え方 .....	33
1 基本理念.....	33
2 基本目標.....	34
3 施策の体系 .....	35
第4章 施策の展開.....	36
基本目標 01 スポーツに親しむ機会の創出（スポーツをする、みる） .....	36
基本目標 02 スポーツをとりまく環境の充実（スポーツをささえる） .....	43
基本目標 03 スポーツを通じたまちの魅力の創造（スポーツでつながる） .....	46
第5章 計画の推進.....	49
1 計画の推進体制.....	49
2 計画の進捗管理.....	50
参考 資料編.....	52
1 蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱 .....	52
2 蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会名簿 .....	54
3 計画策定の経過.....	55
4 用語解説.....	56

### 用語の解説

計画書中において「＊」がついている用語については、巻末「参考 資料編」の「用語解説」に用語の説明を掲載しています（「＊」は該当の用語が初出となる箇所へのみ）。



## 1 計画策定の趣旨・背景

### (1) 計画策定の趣旨

スポーツは、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであるとともに、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人の権利です。

スポーツは、体力向上やストレスの発散、生活習慣病の予防など、身心の健康の保持増進をもたらすだけでなく、仲間との連帯感や達成感といった精神的充足をもたらします。また、多くの人に夢や感動を与え、人々を集わせる魅力を持ち、地域の交流と活性化につながるものでもあります。

本市では、平成13年（2001年）3月に「生涯スポーツ推進計画」を策定し、「人が好き スポーツが好き 蒲郡が好き」を基本理念に掲げ、スポーツ推進に関する取組を進めてきましたが、策定から20年余が経過する中で、「スポーツ基本法」（平成23年（2011年）法律第78号）の制定や、「スポーツ庁」の創設（平成27年（2015年）10月）、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催など、スポーツを取り巻く環境は大きく変わってきました。また、国においては昨年度に「第3期スポーツ基本計画」が策定され、県においても「愛知県スポーツ推進計画」の見直しが進められているところです。

そのような中で、本市においても時代に即した効果的なスポーツ施策を推進するため、本市のスポーツ推進の基本的な考え方や施策を示した「蒲郡市スポーツ推進計画」（以下、本計画という）を策定いたしました。



## (2)社会情勢

### ① 人生 100 年時代の到来

わが国においては少子高齢化が進行し、現在、世界一の高齢社会を迎えているといわれています。「人生 100 年時代」\*といわれる時代になり、スポーツは健康の保持増進のためだけでなく、フレイル\*の予防やコミュニティの形成、生きがいづくりなど、様々な役割が期待されています。

### ② 地域共生社会の実現

人口減少や高齢化が進み、地域におけるささえ合いの基盤が弱体化する中、だれもが「ささえ手」、「受け手」という関係を超えて共にささえ合い、地域で生きがいを持って暮らすことができる「地域共生社会」\*の実現が重要になっています。国の「第 3 期スポーツ基本計画」においても、だれもが「する」、「みる」、「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人と「ともに」スポーツを楽しめる環境の構築を通じ、スポーツを軸とした共生社会の実現が目指されています。

### ③ SDGs(持続可能な開発目標)の採択

平成 27 年(2015 年)9月の国連サミットにおいて、SDGs\*が採択されました。SDGs とは持続可能な未来を達成するための開発目標で、17 のゴールと 169 のターゲットが設定されていますが、それぞれのゴール・ターゲットは相互に関連して持続的な発展を目指すものであり、「目標 3 すべての人に健康と福祉を」をはじめ、スポーツとの関連性のある目標も含まれています。

### ④ デジタル化の推進

ICT\*、IoT\*、ビッグデータ\*などの急速な技術革新によって、「Society5.0」\*という新たな時代が到来するといわれています。こういった新しい技術は、新しい産業の創出や生産性の向上だけでなく、一人ひとりの生活の質の向上にもかかわっています。

スポーツ業界も例外ではなく、デジタルの活用により、競技のパフォーマンスや、観るスポーツのエンターテインメント性の向上が期待されています。

### ⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響

令和元年(2019 年)に発見された新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、様々なスポーツ大会やイベントが中止・規模の縮小を余儀なくされ、多大な影響を受けています。

また、感染拡大防止対策のための外出自粛などにより、日常生活においてもスポーツの機会が減少し、運動不足やフレイルの進行が懸念されており、新しい生活様式に対応したスポーツ環境の整備が求められています。

## 2 スポーツ推進をめぐる国・県の動向

### (1) 国の動向

#### ① スポーツ基本法の制定

わが国では、スポーツ振興に関する施策の基本を定める法律として、昭和 36 年（1961 年）に「スポーツ振興法」が制定されていましたが、スポーツを取り巻く社会状況の変化等により見直しを図られ、平成 23 年（2011 年）6 月に「スポーツ振興法」を全面改定した「スポーツ基本法」が制定されました。

この法律は、スポーツに関する施策を国家戦略として推進し、スポーツ立国を実現することを目的として制定された法律で、スポーツに関する基本理念やスポーツに関する施策の基本となる事項を定めたものです。

#### ② スポーツ基本計画の策定

「スポーツ基本法」に基づき、平成 24 年（2012 年）3 月に「第 1 期スポーツ基本計画」が文部科学省によって策定されました。スポーツ基本計画は、わが国のスポーツ施策の具体的な方向性を示すもので、国、地方公共団体、スポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針となるものです。

その後、平成 27 年（2015 年）10 月には、「スポーツ立国」を実現するための組織として、「スポーツ庁」が設立されており、「第 2 期スポーツ基本計画」はスポーツ庁により、平成 29 年（2017 年）3 月に策定されています。第 2 期計画では、新しい時代におけるスポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割の重要性が示されるとともに、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」といった様々なかたちでの「スポーツ参画人口」を拡大し、「一億総スポーツ社会」\*を実現するための、国や地方公共団体の責務、スポーツ団体の努力等が明らかにされています。

現在は、令和 4 年（2022 年）3 月に策定された「第 3 期スポーツ基本計画」に基づき、取組が推進されています。第 3 期計画では、新型コロナウイルス感染症の拡大によりスポーツ活動の機会が制限されたことや、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の影響、その他の社会情勢等を踏まえ、『スポーツそのものが有する価値』、『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』をさらに高めることが目指されており、スポーツの価値を高めるために『スポーツを「つくる / はぐくむ』』、『スポーツで「あつまり、ともに、つながる』』、『スポーツに「だれもがアクセスできる』』という 3 つの視点が重視されています。



出前講座（ポッチャ）



小学生ヨット体験

### ③ スポーツ・イン・ライフの推進

スポーツ実施率の飛躍的な向上に向けて、新たなアプローチや、即効性のある取組をとりまとめた「スポーツ実施率向上のための行動計画」が、スポーツ庁により平成 30 年（2018 年）9 月に策定されました。この計画では、生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」を実践すること、スポーツの実施により、スポーツの価値の享受、健康増進、健康寿命\*の延伸を図り、健康長寿社会を実現していくことが示されています。



現在は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー\*として、多くの人々がスポーツを楽しむことができる社会を目指し、スポーツを行うことを生活習慣の一部とするための「Sport in Life プロジェクト」が推進されており、本市もプロジェクトの趣旨に賛同し、「Sport in Life コンソーシアム」に参画しています。

### ④ 障害者のスポーツ活動推進プランの策定

障がいのある人がその個性や能力を生かして活躍できる場をより一層拡大することを目指して、スポーツや文化、生涯学習などの分野における障がい者施策をとりまとめた「障害者活躍推進プラン」が、平成 31 年（2019 年）の 1 月～4 月にかけて策定されました。

「障害者活躍推進プラン」のうち、スポーツ分野に関するプランとして、「障害のある人のスポーツ活動を支援する ～障害者のスポーツ活動推進プラン～」が、スポーツ庁により平成 31 年（2019 年）3 月に策定され、障がいのある児童生徒のスポーツ実施環境の整備や、障がいのある人がスポーツを実施するための拠点の整備などに関する対策がとりまとめられました。

### ⑤ 国際スポーツ大会のレガシーの継承

令和元年（2019 年）にはラグビーワールドカップ 2019 日本大会、令和 3 年（2021 年）には東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会といった大規模な国際スポーツ大会が国内で開催されました。

こういった国際スポーツ大会を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させることや、国際スポーツ大会のレガシーを継承し、地域の活性化につなげていくことが求められています。

### ⑥ スポーツツーリズムの推進

「スポーツツーリズム」\*とは、スポーツ資源とツーリズムを融合する取組のことで、既存のスポーツ資源のほかにも地域資源がスポーツの力で観光資源となる可能性も秘めています。国では、平成 23 年（2011 年）に「スポーツツーリズム推進基本方針 ～スポーツで旅を楽しむ国・ニッポン～」が策定され、スポーツと観光を融合させた地域活性化に向けて、スポーツツーリズム推進の基本的方向が示されました。令和 4 年（2022 年）3 月に策定された「第 3 期スポーツ基本計画」においても、スポーツツーリズムの更なる推進が目指されており、ウズコロナの中でも楽しむことができる地域の自然資源を活用した「アウトドアスポーツツーリズム」の推進、担い手の質の向上へのサポート等などが盛り込まれています。



## (2) 県の動向

### ① 愛知県スポーツ推進計画の策定

愛知県では、平成 25 年（2013 年）3 月に「いきいきあいちスポーツプラン ～豊かなスポーツライフの創造～」が策定されています。この計画では、県民一人ひとりがそれぞれのライフステージや興味・関心等に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しみ、活力ある「スポーツ愛知」を実現するための基本的な方向性が示されています。

「いきいきあいちスポーツプラン ～豊かなスポーツライフの創造～」は計画の中間年度である平成 29 年度（2017 年度）に見直しが行われており、「いきいきあいち スポーツプラン（改訂版）」が策定されています。この計画は令和 4 年度（2022 年度）までの計画であるため、現在は次期計画の作成が進められています。

### ② 第 20 回アジア競技大会及び第 5 回アジアパラ競技大会の開催

令和 8 年（2026 年）には愛知県において、第 20 回アジア競技大会及び第 5 回アジアパラ競技大会が開催されることとなっており、本市もセーリングの競技会場に仮決定しています。

アジア競技大会は、4 年に 1 度開催されるアジア最大のスポーツの祭典で、アジアの 45 の国と地域が参加します。大会のスローガンは、「IMAGINE ONE ASIA ここで、ひとつに。」であり、スポーツが持つ力を生かし、多様性が進む社会に生きる一人ひとりが、それぞれの「ONE ASIA」を想像（IMAGINE）することで絆を深め、未来へ向かって進んでいけるようにとの願いが込められています。

また、アジア競技大会の開催に先立ち、令和 7 年（2025 年）に、世界最高レベルのスマートアリーナである（仮称）愛知県新体育館が開業する予定となっています。



豊田自動織機海陽ヨットハーバー  
(アジア競技大会 セーリング会場予定地)

### 3 本計画におけるスポーツの定義

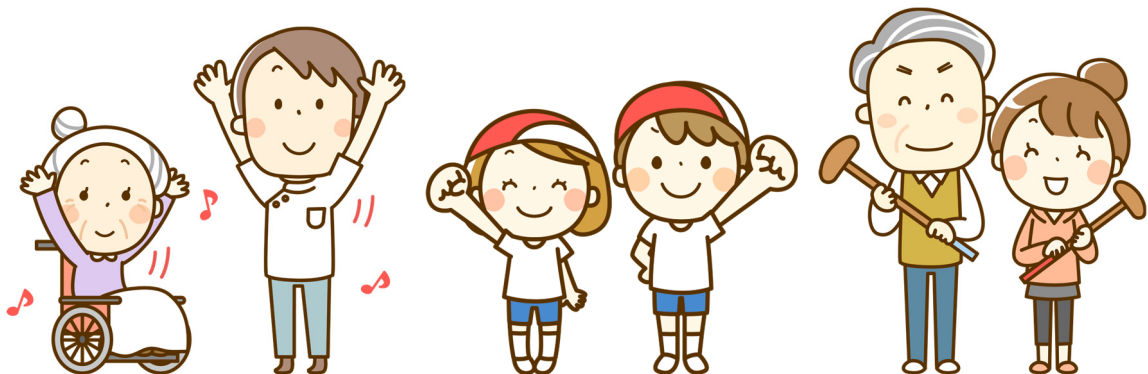
スポーツ基本法においてスポーツは、「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵（かん）養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と定義されており、「人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するもの」とされています。

本計画においては、市民がスポーツをより身近なものとして感じ、気軽に楽しむことができるよう、「スポーツ」の概念を広く定義づけ、陸上競技や野球、サッカーのような勝敗を争う競技スポーツだけでなく、楽しむためのスポーツやウォーキング、散歩、軽い体操など、趣味や健康づくり・体力づくりのために身体を動かす活動もスポーツに含むものとします。

#### 本計画における e スポーツの位置づけ

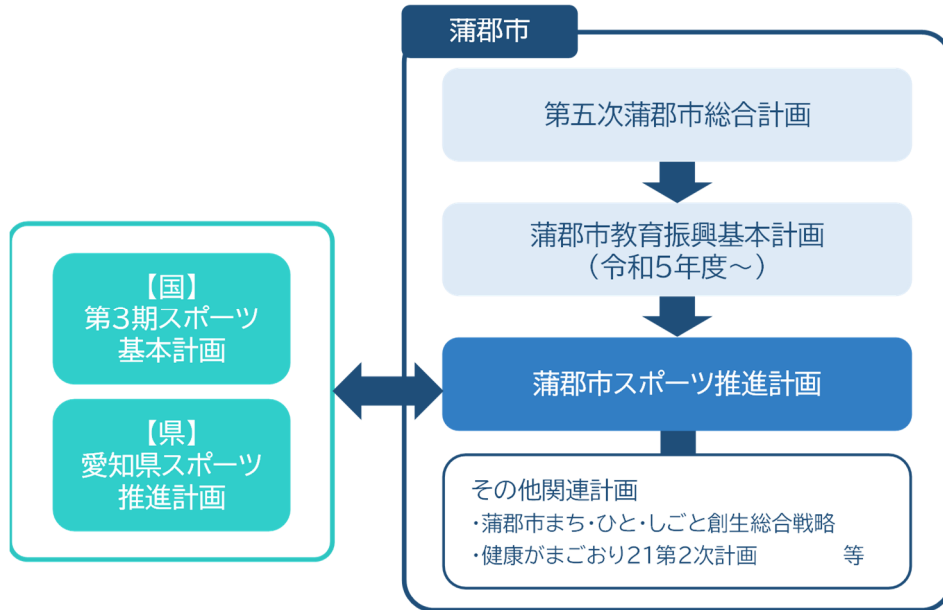
e スポーツとは、エレクトロニック・スポーツの略称で、コンピューターゲームやビデオゲームを使って対戦する競技のことを指しています。e スポーツという言葉の歴史は浅く、2000 年代の初め頃から使われている言葉ですが、欧米や中国、韓国を中心に市場が拡大しており、世界の競技人口は 1 億 3,000 万人以上といわれています。中国・杭州で行われる第 19 回アジア競技大会においても、初めて正式種目として実施されることが決まっています（延期により令和 5 年（2023 年）9 月実施予定）。

また、e スポーツは高齢者の介護予防という視点からも効果が期待されているところですが、現段階では e スポーツの振興が本市のスポーツ推進に際しどのような影響があるのか判断することが困難であり、今後の国・県の動向を注視しつつ、本市としての対応を検討・整理する必要もあることから、本計画で定義するスポーツには含めないものとします。



## 4 計画の位置づけ・期間

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に規定する「地方スポーツ推進計画」として位置づけ、計画期間は令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5年間とします。



## 5 SDGs との関係

SDGs の推進にあたっては、「誰一人取り残さない」世の中の実現や、経済、社会、環境の統合が実現された未来を目指すことが重要であるとされており、国においても、その達成に向けた取組が進められています。

本市においても地方創生に向けた取組の推進とあわせて SDGs の推進に取り組んでおり、「第五次蒲郡市総合計画」の各施策分野に 17 のゴールを関連づけることにより、全庁的な推進を図っています。

本計画は、SDGs が示す 17 のゴールのうち、「3 すべての人に健康と福祉を」、「4 質の高い教育をみんなに」及び「11 住み続けられるまちづくりを」の目標達成に資する取組として位置づけます。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 6 計画の策定体制

### (1)市民アンケート調査の実施

市民のスポーツに対する意識やスポーツの実施状況、ニーズ等を把握するために、市民アンケート調査を実施しました。

#### 実施概要

区分	①一般市民調査	②小学生調査	③中学生調査	④利用者調査
調査対象者	市内在住の市民 (18歳以上)	市内小学校5年生	市内中学校2年生	市内在住の15歳 (高校生)以上の 社会体育施設利用者
調査方法	郵送配布、 郵送回収+Web回答	学校配布、学校回収	学校配布、学校回収	施設配布、 施設回収+Web回答
調査期間	令和4年(2022年) 1月24日~2月28日	令和4年(2022年)1月20日~2月28日		令和4年(2022年) 1月26日~2月28日
配布数	1,500件	664件	692件	-
回収件数	495件 (うちWeb67件)	642件	627件	208件 (うちWeb123件)
回収率	33.0%	96.7%	90.6%	-

### (2)スポーツ団体ヒアリングの実施

市内で活動しているスポーツ団体(スポーツ協会の加盟団体等)に対し、郵送によるヒアリング調査を実施し、活動の状況や活動上の課題、本市のスポーツ環境等に対する意見を伺いました(配布数:43団体、回収数:40団体、回収率:93.0%)。

### (3)策定委員会・庁内検討会の開催

スポーツ関連団体等の代表者で組織する「蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会」にて計画案についての検討を行うとともに、「庁内検討会(市役所関係課で構成)」において、計画案の検討、調整を行いました。

### (4)パブリックコメントの実施

計画案をホームページや公民館等で公開し、「パブリックコメント手続き(市民意見の募集)」を実施しました。

## 第2章

# 蒲郡市の現状と課題

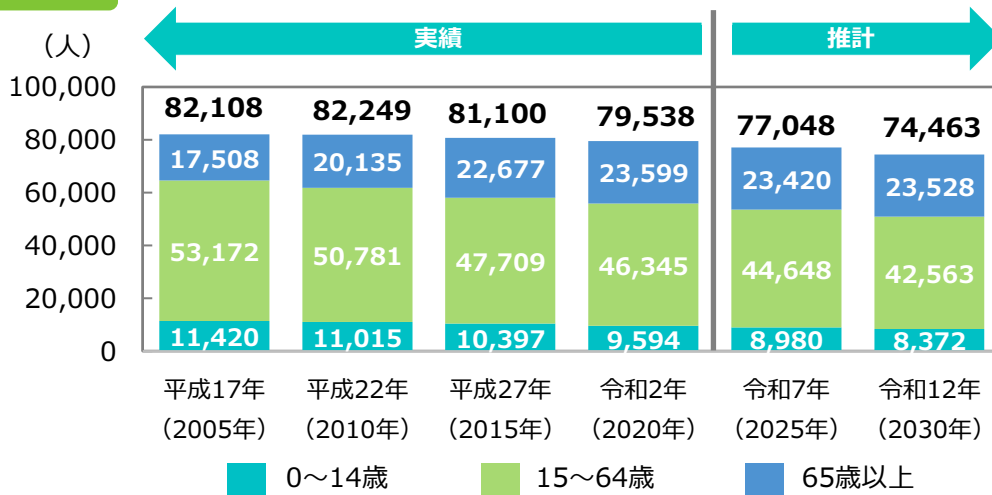


### 1 蒲郡市のスポーツをめぐる現状

#### (1)人口の状況

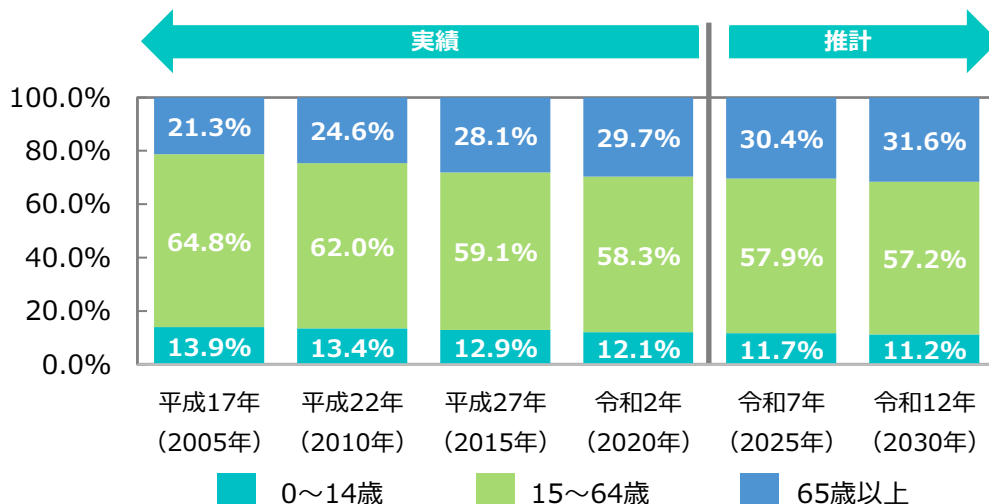
- 蒲郡市の人口は年々減少しており、令和12年（2030年）には74,463人まで減少することが予想されています。
- 少子高齢化も年々進み、高齢者の割合は令和7年（2025年）には30%を超えることが予測されています。

#### 人口の推移



資料：令和2年までは国勢調査、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所  
 ※総人口（グラフ上の数値）には年齢不詳が含まれるため、内訳の合計とは一致しない

#### 少子高齢化の推移



資料：令和2年までは国勢調査、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所  
 ※母数には年齢不詳は含まない

## (2) 主な取組の状況

### ① 生涯スポーツの推進

- 市民総合スポーツ大会や三河湾健康マラソン大会、ニュースポーツ\*大会、高齢者スポーツ大会などの各種スポーツ大会の開催を通じ、市民のスポーツ習慣の定着及びスポーツ活動への参加促進を図っています。
- スポーツ推進委員会では、ニュースポーツの出前講座を通じ、スポーツをはじめるきっかけづくりを推進しています。
- 市民の健康づくりを目的に、各種健康教室の開催や運動サポートセンターでの運動支援、ウォーキングコースの紹介等を行っています。

#### 大会等参加者数

単位：人（延べ数）

	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)
新春ラジオ体操のつどい	250	250	250	中止	中止
スポーツ少年団大会	415	381	385	中止	266
スポーツ少年団寒げいこ	2,178	2,042	2,072	中止	558
市民総合スポーツ大会※	6,634	6,378	6,050	2,091	1,313
高齢者スポーツ大会（春季）	272	272	中止	中止	中止
高齢者スポーツ大会（秋季）	270	280	260	中止	中止
三河湾健康マラソン大会	3,015	3,385	3,534	中止	中止
ニュースポーツ大会	131	118	147	33	中止
合計	13,165	13,106	12,698	2,124	2,137

※令和2年度（2020年度）、令和3年度（2021年度）の市民総合スポーツ大会は新型コロナウイルスの感染拡大のため、多くの種目が中止となっている

#### 講習会・教室参加者数

単位：人（延べ数）

		平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)
講習会	ラジオ体操指導者講習会	38	34	34	中止	中止
	ラジオ体操普及講習会	553	481	513	中止	中止
教室	夏休み親子水泳教室	14	15	34	中止	中止
	夏休みバドミントン教室	53	50	50	中止	中止
	夏休みすもう教室	25	17	25	中止	中止
	ニュースポーツ教室	74	111	100	中止	中止
	野球教室		65	48	中止	中止
合計		757	773	804	-	-

## ② 競技スポーツの推進

- 市及びスポーツ協会では、各競技のスポーツ教室の開催を通じ、新たなスポーツを始めるきっかけづくりや競技力の向上を図っています。
- 子どもたちの夢や憧れを応援するため、トップアスリートを招いたスポーツ教室を開催しています。
- 激励金制度を設け、全国大会等に出場する市民を激励しています。
- スポーツ協会では、大会で優秀な成績を収めた市民に表彰を行っています。

## (3)スポーツ関連団体の状況

- 市はスポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会等の活動を支援し、スポーツの振興を図っています。
- スポーツ少年団本部は、スポーツ少年団同士の交流や、子どもたちが多様な体験ができるように、スポーツ少年団大会、レクリエーション大会、清掃活動、寒げいこなどを実施しています。
- スポーツ推進委員会は、蒲郡市内の 11 地区と中小体連から推薦された、蒲郡市のスポーツ振興に努めるスポーツ推進委員で構成される組織で、ニュースポーツの普及活動や市内のスポーツ事業の振興・指導をしています。
- スポーツ協会の登録者数はコロナ禍の影響を受け大幅に減少しましたが、スポーツ少年団については、令和 2 年度（2020 年度）から令和 3 年度（2021 年度）にかけては減少しているものの、ここ数年は増加傾向にあり、平成 30 年（2018 年）以降は 700 人を上回っています。

### 団体・登録者数

団体名		平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)
スポーツ 協会	団体数（団体）	25	25	25	25	25
	競技種目数（種）	22	22	22	22	22
	登録者数（人）	4,797	4,596	4,545	2,908	3,014
スポーツ 少年団	団体数（団体）	20	20	21	21	21
	競技種目数（種）	9	9	9	9	9
	登録者数（人）	606	709	746	799	737

#### (4)スポーツ施設の状況

- 市民に良好なスポーツ環境を提供するため、計画的にスポーツ施設を整備しています。
- スポーツ施設の有効活用及び交流人口の拡大のため、スポーツツーリズムの振興を図っています。





## 施設一覧

	備考
市民体育センター	主な施設：競技場、トレーニング室、柔道場、剣道場、多目的練習場、弓道場、相撲場、会議室、和室
公園グラウンド	主な施設：野球場、陸上競技場
文化広場	主な施設：競技場、多目的運動場、ゲートボール場、会議室
テニスコート	浜町テニスコート、形原テニスコート、金平テニスコート
グラウンド	犬口グラウンド、三谷グラウンド、浜町グラウンド、西浦グラウンド、明柄グラウンド、南明柄グラウンド、浜町グラウンドゲートボール場、南明柄ゲートボール場
多目的広場	海陽多目的広場、浜町多目的広場（県施設）
野球場	浜町野球場（県施設）
運動広場	市内 15ヶ所

## 施設利用者数

単位：人（延べ数）

	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)
市民体育センター	189,138	182,123	153,380	52,316	84,846
公園グラウンド	27,350	34,731	30,497	17,722	25,852
文化広場	30,658	28,658	26,019	21,688	27,830
学校体育施設開放	100,351	98,088	88,138	62,471	64,793
その他	119,794	124,528	134,928	64,224	88,392
合計	467,291	468,128	432,962	218,421	291,713



市民体育センター

### 市民体育センター利用者数

単位：人（延べ数）

	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)
競技場	43,653	41,912	39,515	16,106	27,669
トレーニング室	22,553	22,556	18,065	5,513	6,128
会議室・和室	38,936	42,786	33,056	7,703	13,445
柔道場	21,042	19,132	14,542	6,807	12,700
剣道場	14,396	13,017	12,395	4,422	6,337
多目的練習場	12,988	12,126	10,088	4,091	7,021
弓道場	21,104	20,123	16,837	6,452	11,346
テニスコート	13,009	9,276	7,661	1,210	-
相撲場	1,457	1,195	1,221	12	200
合計	189,138	182,123	153,380	52,316	84,846

※第2弓道場、テニスコートは令和2年（2020年）7月に供用停止

### 公園グラウンド利用者数

単位：人（延べ数）

	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)
野球場	10,200	12,861	11,036	4,645	11,376
陸上競技場	17,150	21,870	19,461	13,077	14,476
合計	27,350	34,731	30,497	17,722	25,852

### 文化広場利用者数

単位：人（延べ数）

	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)
競技場	20,780	20,316	19,433	17,711	22,859
多目的運動場	2,120	2,458	1,995	1,563	1,767
ゲートボール場	725	593	669	934	1,350
会議室	7,033	5,291	3,922	1,480	1,854
合計	30,658	28,658	26,019	21,688	27,830

## 維持・管理費

単位：千円

	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)
保健体育総務費	93,112	56,271	55,533	48,373	49,341
体育施設費	268,333	194,518	605,989	995,635	1,127,251
合計	361,446	250,789	661,521	1,044,008	1,176,592
工事費計（構成比）	113,040 (31.3%)	39,326 (15.7%)	389,949 (58.9%)	848,274 (81.3%)	883,702 (75.1%)
修繕費計（構成比）	7,355 (2.0%)	6,139 (2.4%)	6,408 (1.0%)	6,282 (0.6%)	6,399 (0.5%)

※構成比は合計に占める割合

（注）保健体育総務費と体育施設費は 100 円単位を四捨五入しており、合計は四捨五入前の数値の合計の 100 円単位を四捨五入しているため、保健体育総務費と体育施設費の合計と表内の合計は一致しない

## 公民館でのスポーツ事業

公民館区	公民館事業	クラブ・サークル数
蒲郡	地区杯ソフトボール大会、グラウンドゴルフ練習会、レク歩こう大会、ラジオ体操、館長杯ソフトボール大会、グラウンドゴルフ大会	5
小江	みんなで歩こう健康づくり大会、グラウンドゴルフ大会	8
府相	歩こう健康づくり大会・体育祭・グラウンドゴルフ大会	23
東部	歩け歩け健康づくり大会、軽スポーツ大会（モルック他）、体育祭、グラウンドゴルフ大会	7
北部	みんなで歩こう健康づくり大会、少年野球、バレーボール、グラウンドゴルフ、子ども会スポーツ大会、体育祭	7
西部	歩け歩け健康作り大会、学区体育祭、グラウンドゴルフ大会、子どもニュースポーツ大会	4
三谷	大人の卓球、ダーツ、高砂ダーツ、グラウンドゴルフ、スポーツダンス、スナックゴルフ、3B 体操、みんなでヨガ、今日から運動、みんなで歩こう健康づくり大会	8
塩津	みんなで歩こう健康づくり大会、早朝ソフトボール大会、軽スポーツ広場（グラウンドゴルフ、ドッチボール他）、体育祭、グラウンドゴルフ大会	2
大塚	バレーボール大会、キックベースボール大会、ソフトボール大会、運動会、ニュースポーツ大会	17
形原	新年歩こう健康づくり大会、レクレーション大会、ソフトボール大会、グラウンドゴルフ大会、ニュースポーツ交歓会	9
西浦	みんなで歩こう健康づくり大会、グラウンドゴルフ大会、ソフトボール大会、卓球交歓会、ソフトバレーボール大会、体育祭	14

## 2 市民アンケート調査結果からみる現状

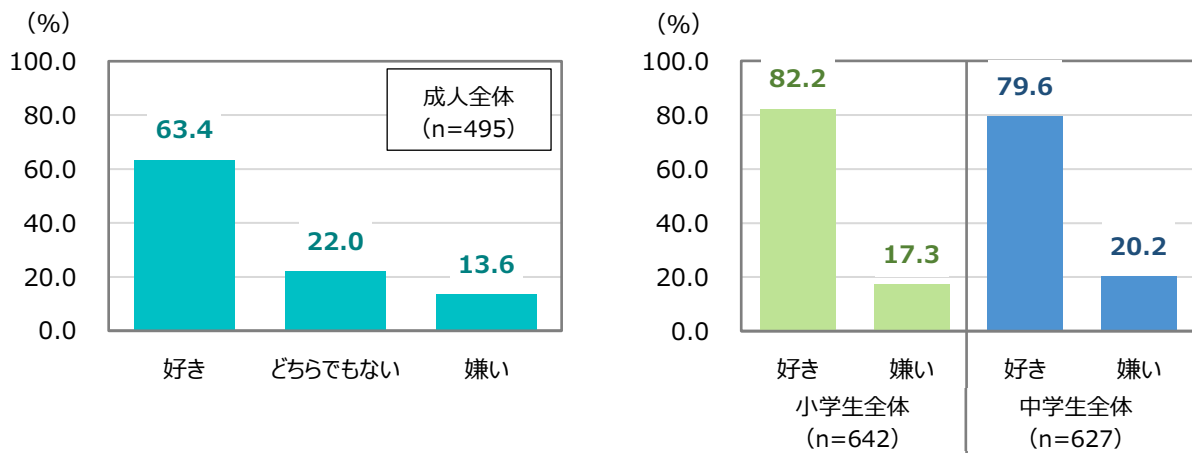
### (1)スポーツで体を動かすことに対する意識

●スポーツで体を動かすことが好きな成人の割合は、63.4%となっています。

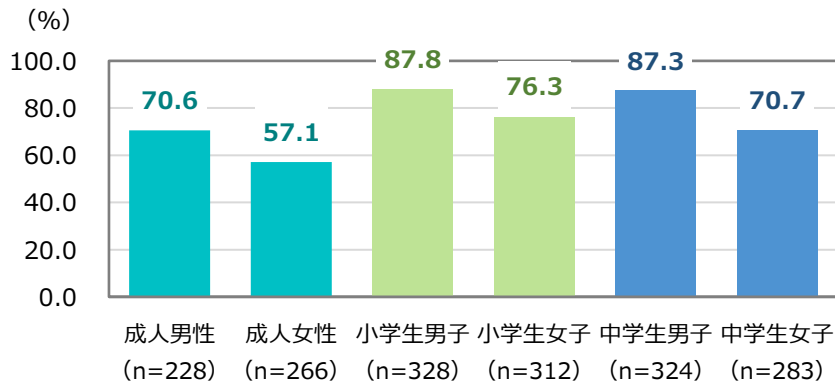
小学生では82.2%、中学生では79.6%となっています。

- ・成人、小学生、中学生ともに、男性（男子）の割合の方が高くなっています。
- ・成人での割合を年齢別でみると、40歳代、50歳代での割合が高くなっていますが、60歳代以降は割合が減少する傾向にあります。

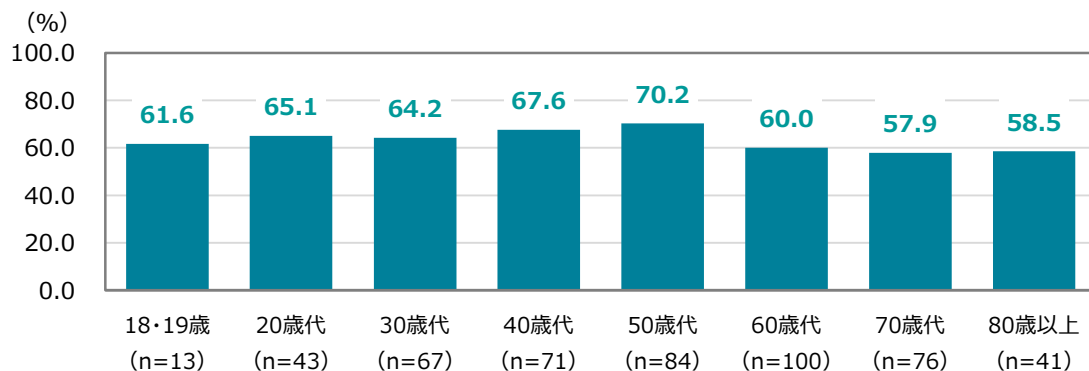
#### ■スポーツで体を動かすことに対する意識(蒲郡市成人・小中学生)



#### ■【性別】スポーツで体を動かすことが好きな人の割合(蒲郡市成人・小中学生)



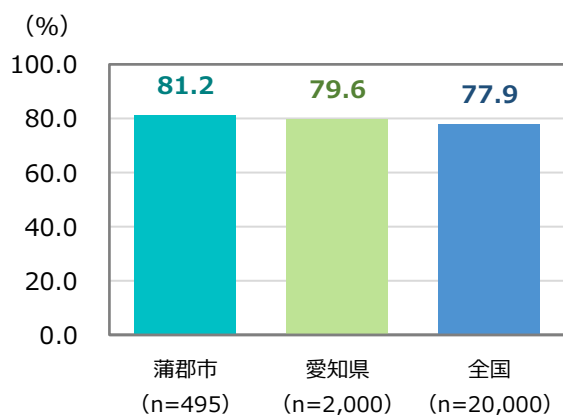
#### ■【年代別】スポーツで体を動かすことが好きな人の割合(蒲郡市成人)



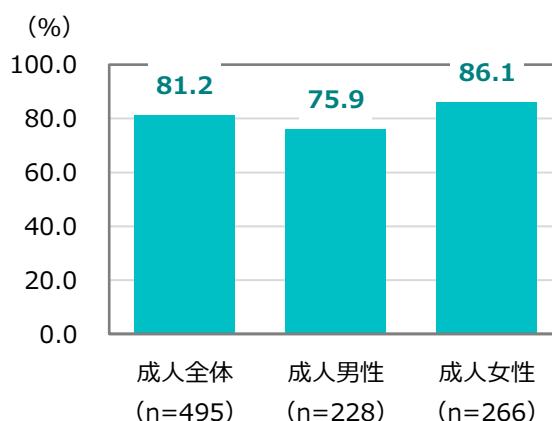
●運動不足を感じている成人の割合は、全国、愛知県よりも高く、81.2%となっています。

- ・性別で見ると、男性 75.9%、女性 86.1%と、女性の割合の方が高くなっています。
- ・年齢別で見ると、特に 30 歳代から 60 歳代での割合が高い傾向にあり、60 歳代から 70 歳代にかけては割合が大きく減少しています。

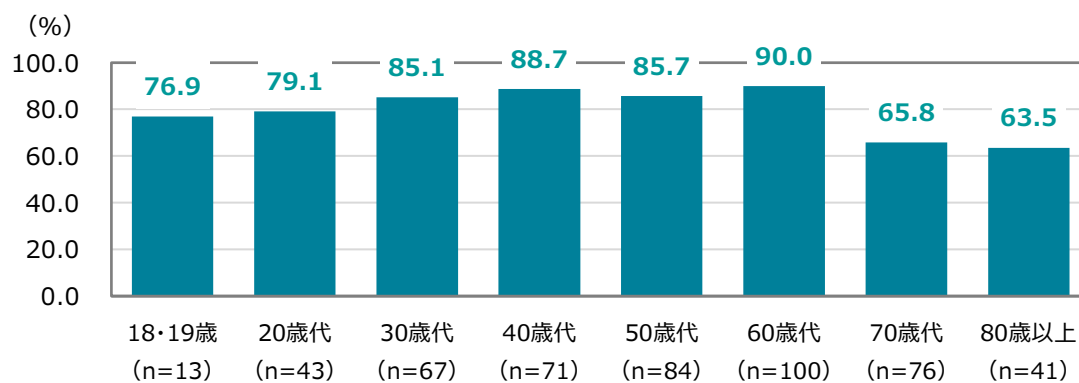
■運動不足だと感じている人の割合  
(成人比較)



■【性別】運動不足だと感じている人の割合  
(蒲郡市成人)



■【年代別】運動不足だと感じている人の割合(蒲郡市成人)

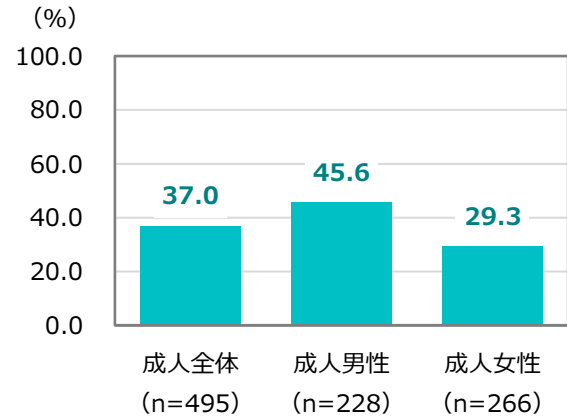


## (2)この1年間のスポーツの実施状況

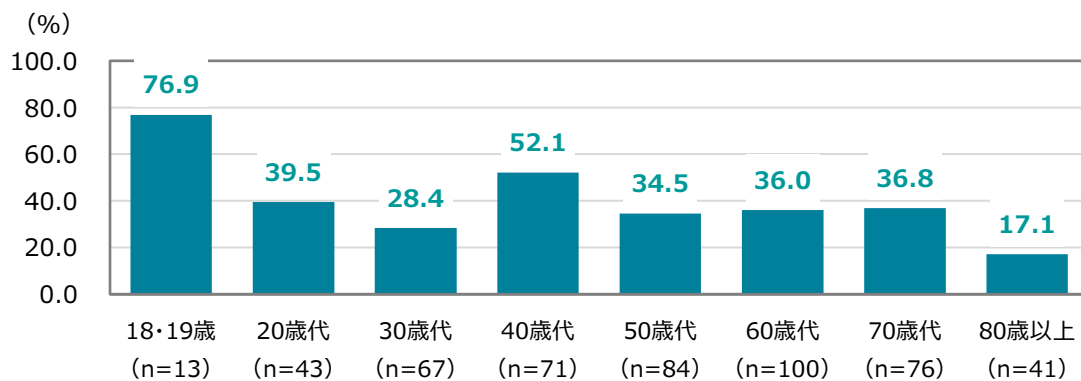
●この1年間にスポーツしている成人の割合は、37.0%となっています。

- ・性別でみると、男性 45.6%、女性 29.3%と、男性の割合の方が高くなっています。
- ・年齢別でみると、18・19 歳、40 歳代での割合が高くなっています。割合が低いのは 30 歳代、80 歳以上となっています。

■【性別】この1年間にスポーツをした人の割合(蒲郡市成人)



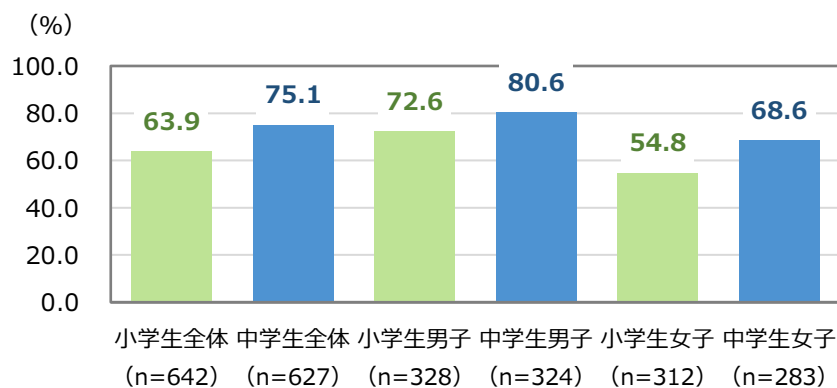
■【年代別】この1年間にスポーツをした人の割合(蒲郡市成人)



●学校の授業や放課以外でスポーツをしている人の割合は、小学生では 63.9%、中学生では 75.1%と、中学生の方が高くなっています。

- ・一方で、スポーツが好きだと回答する子どもの割合は小学生の方が高いことから (P16)、小学生の実施率が低い理由として、小学校の部活動廃止の影響が考えられます。
- ・性別でみると、成人と同様に、小学生、中学生とも男子の方が実施率が高くなっています。

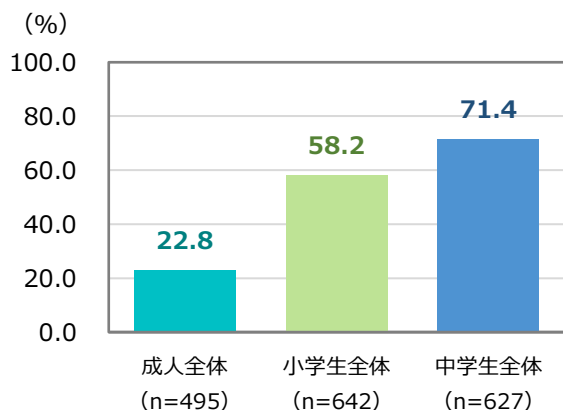
■【性別】学校の授業や放課以外でスポーツをしている子どもの割合(蒲郡市小中学生)



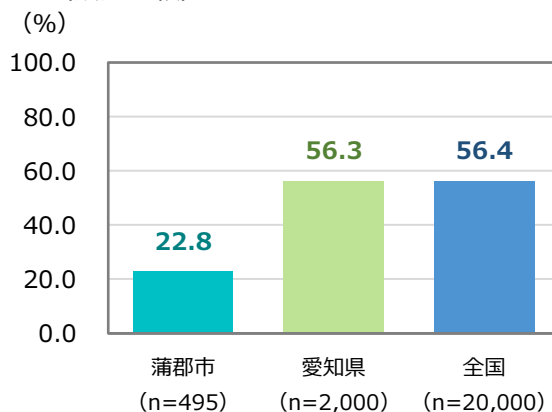
●週1日以上スポーツをする成人の割合は22.8%で、全国、愛知県を大きく下回っています。小学生では58.2%、中学生では71.4%となっています。

- ・成人、小学生、中学生ともに、男性（男子）の割合の方が高くなっています。
- ・成人での割合を年齢別でみると、18・19歳での割合が最も高くなっていますが、30%台にとどまっています。

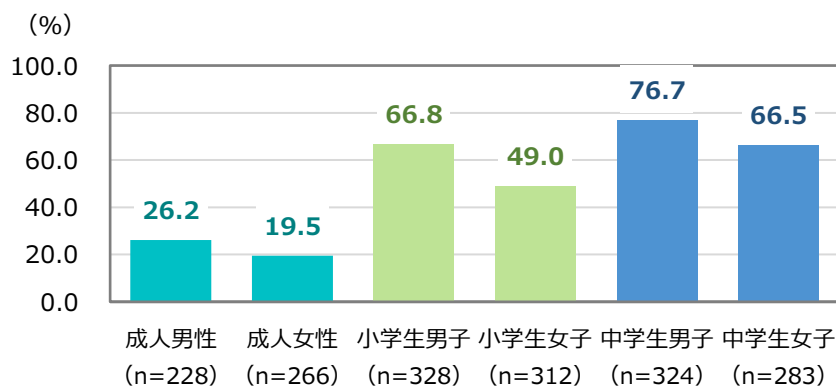
■週1日以上スポーツをする人の割合（蒲郡市）



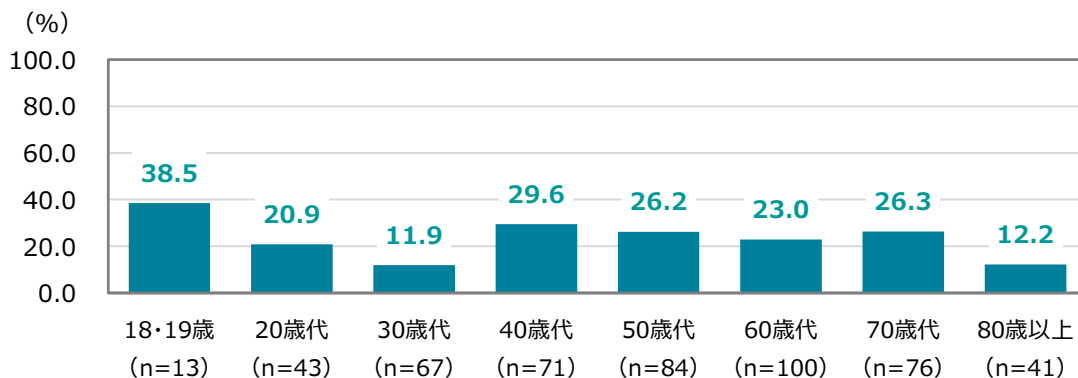
■週1日以上スポーツをする人の割合（成人比較）



■【性別】週1日以上スポーツをする人の割合（蒲郡市成人・小中学生）



■【年代別】週1日以上スポーツをする人の割合（蒲郡市成人）



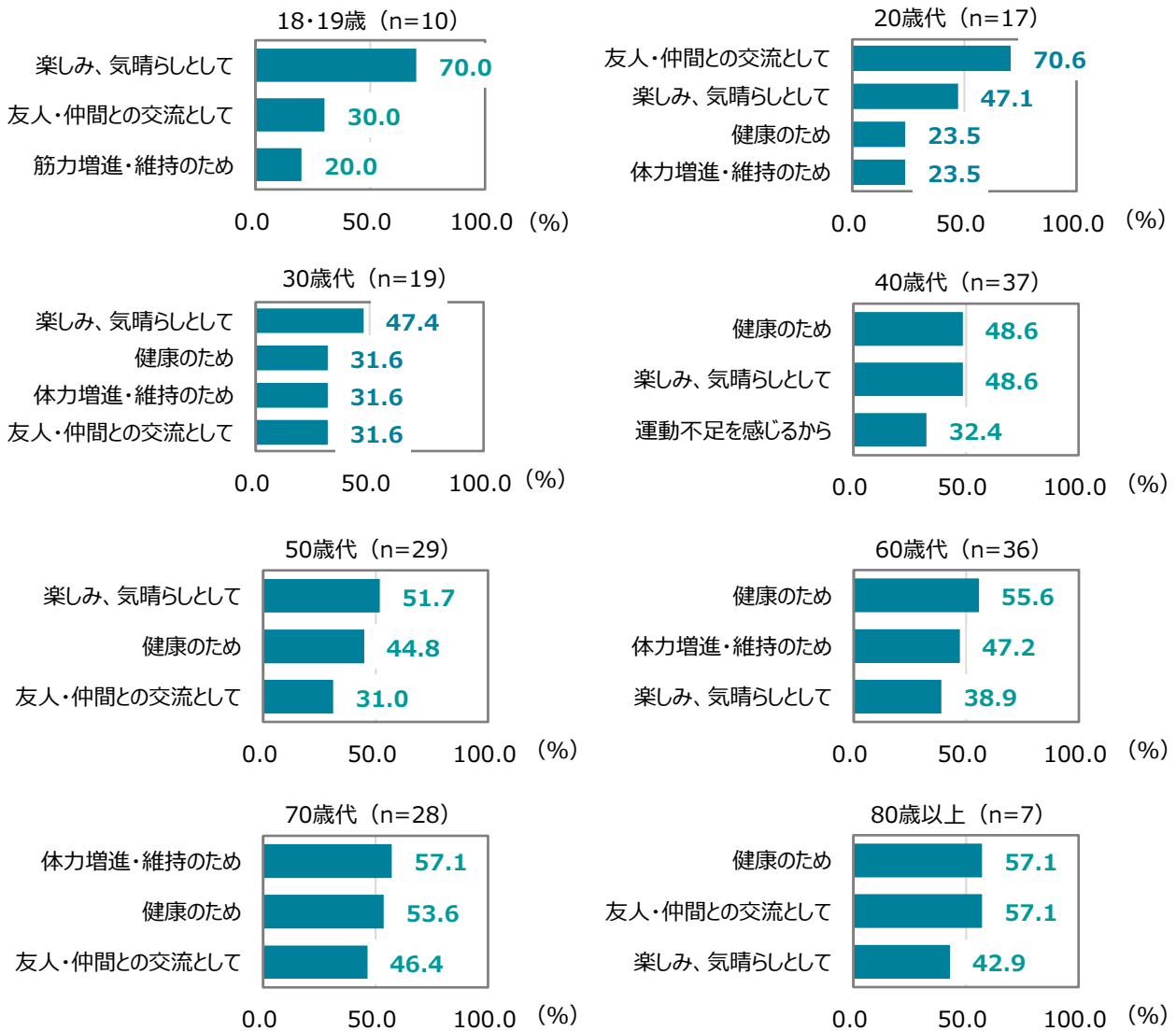
### (3)スポーツをした・しなかった理由

●この1年にスポーツをした理由をみると、60歳代までは「楽しみ、気晴らしとして」の割合が高い傾向にあります。また、40歳代以降から「健康のため」の割合も高くなる傾向にあります。

- ・70歳代以降から「友人・仲間との交流として」と回答する人の割合が高くなる傾向にあります。
- ・40歳代では「運動不足を感じる」が上位に入っています。

#### ■【年代別】この1年にスポーツをした理由・上位3位(蒲郡市成人)

※複数回答(3つまで)

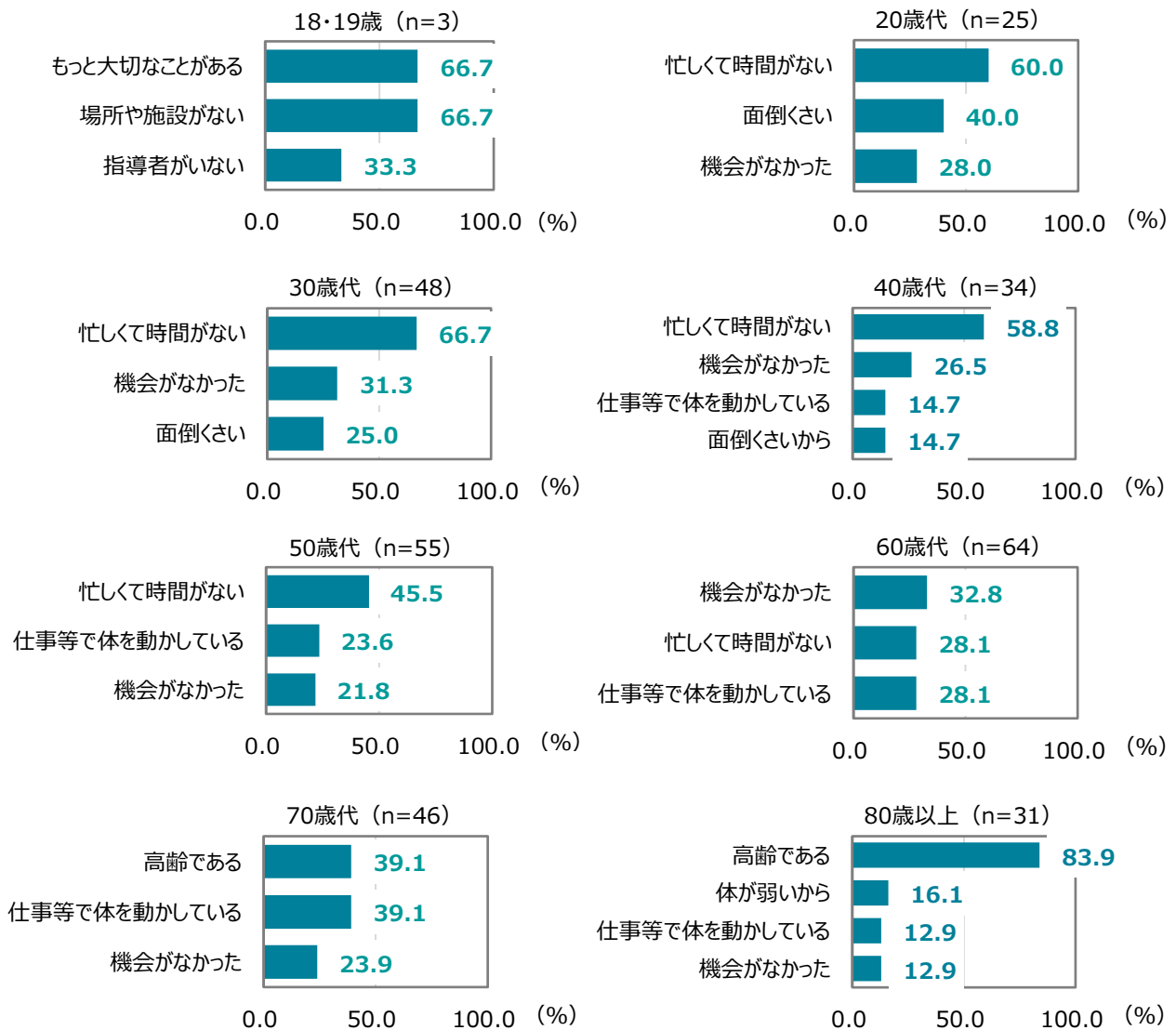




●この1年にスポーツをしなかった理由をみると、20歳代から50歳代までは「忙しくて時間がない」と回答する人が最も多く、割合も高い傾向にあります。

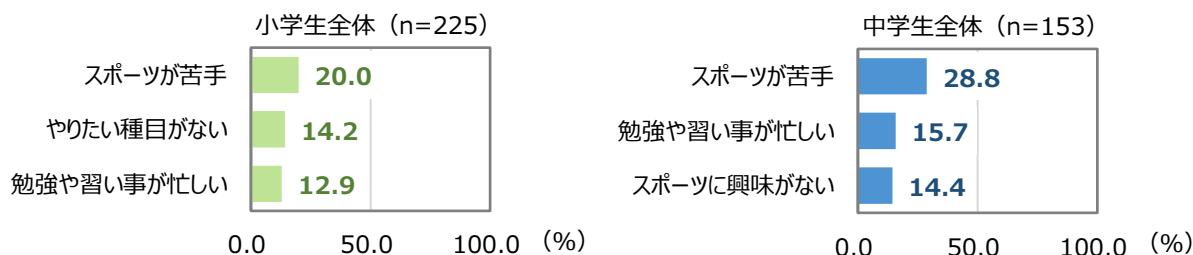
- ・20歳代以上のいずれの年代においても「機会がなかった」が上位に入っています。
- ・70歳代以上では「高齢である」の割合が高くなり、80歳以上では80%を超えています。

■【年代別】この1年にスポーツをしなかった理由・上位3位(蒲郡市成人)  
※複数回答(3つまで)



●小中学生のスポーツをしていない理由をみると、「スポーツが苦手」、「勉強や習い事が忙しい」の割合が高くなっています。

■学校の授業や放課後以外でスポーツをしていない理由・上位3位(蒲郡市小中学生)



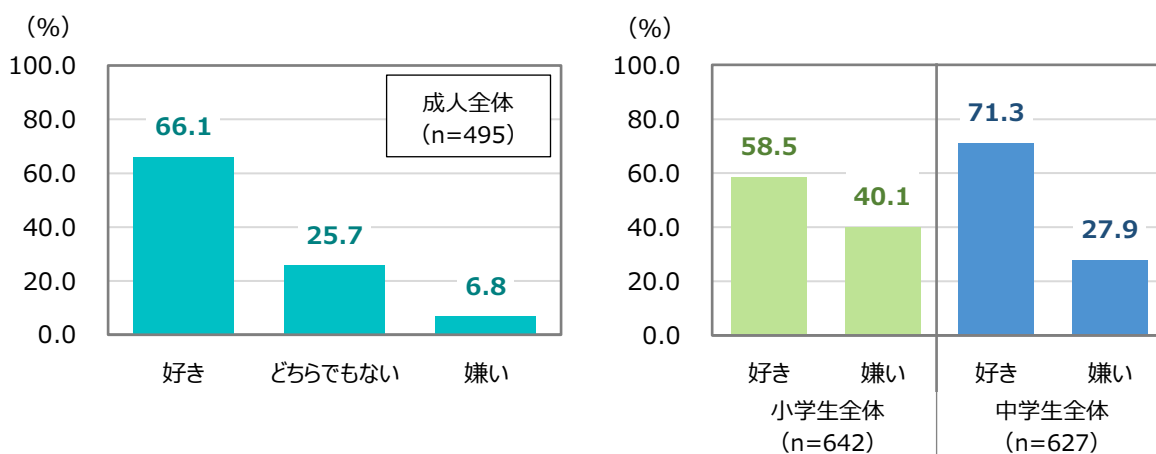
#### (4)スポーツ観戦に対する意識

●スポーツ観戦が好きな成人の割合は、66.1%となっています。

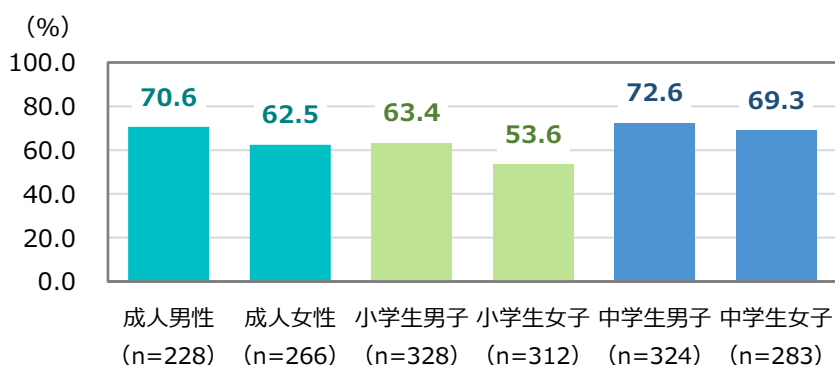
小学生では 58.5%、中学生では 71.3%となっています。

・成人、小学生、中学生ともに、男性（男子）の割合の方が高くなっています。

■スポーツ観戦に対する意識(蒲郡市成人・小中学生)

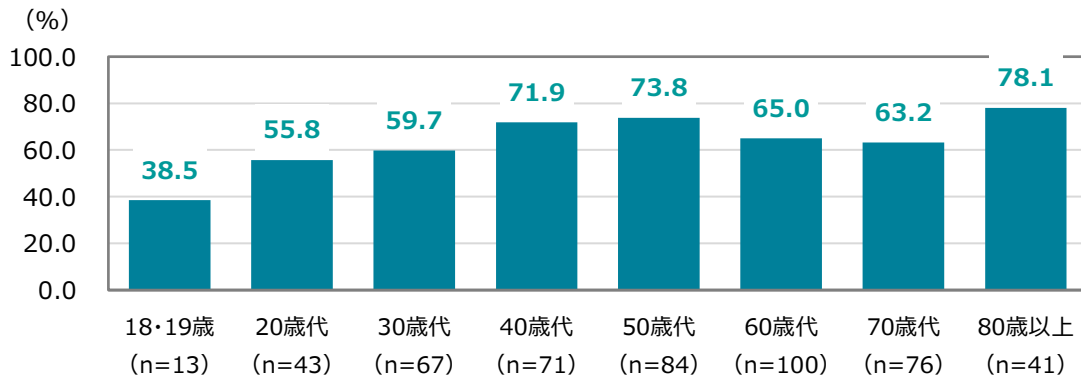


■【性別】スポーツ観戦が好きな人の割合(蒲郡市成人)



●スポーツ観戦が好きな成人の割合を年齢別で見ると、40歳代、50歳代、80歳以上で高くなっています。

■【年代別】スポーツ観戦が好きな人の割合(蒲郡市成人)

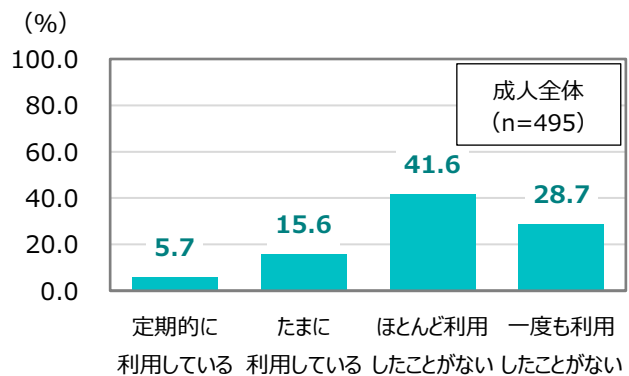


### (5)スポーツ施設の利用状況・施設に対する要望等

●成人のスポーツ施設の利用状況については、「ほとんど利用したことがない」が最も高く、41.6%となっています。

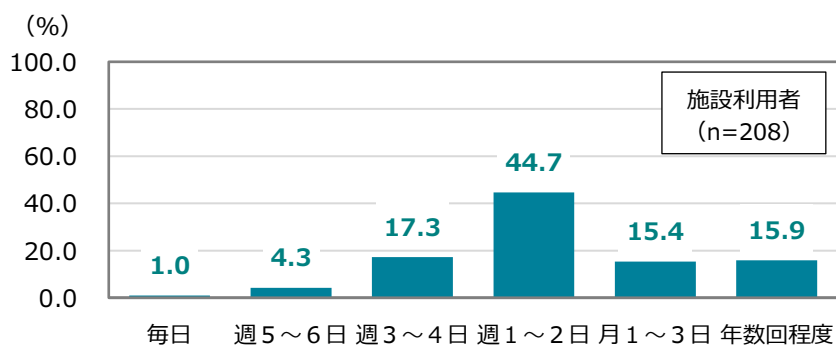
・「ほとんど利用したことがない」もしくは「一度も利用したことがない」と回答した人の割合は70%以上(70.3%)となっています。

■市のスポーツ施設を利用した経験(蒲郡市成人)



●スポーツ施設利用者の施設利用頻度をみると、「週1~2日」と回答する人の割合が最も多くなっています。

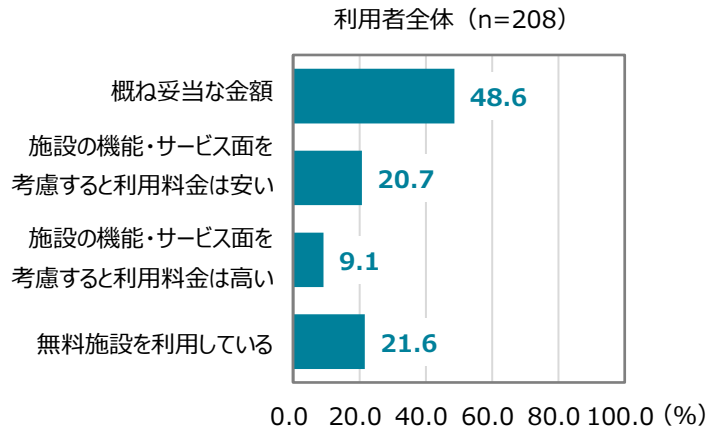
■施設利用者の利用頻度(蒲郡市利用者)



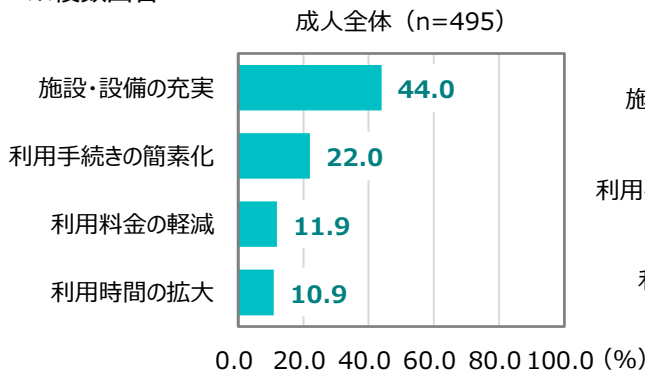
●スポーツ施設の料金については概ね妥当な金額と考えている人が最も多く、48.6%となっています。

●スポーツ施設に対する要望については、成人、利用者ともに、「施設・設備の充実」が最も多くなっています。

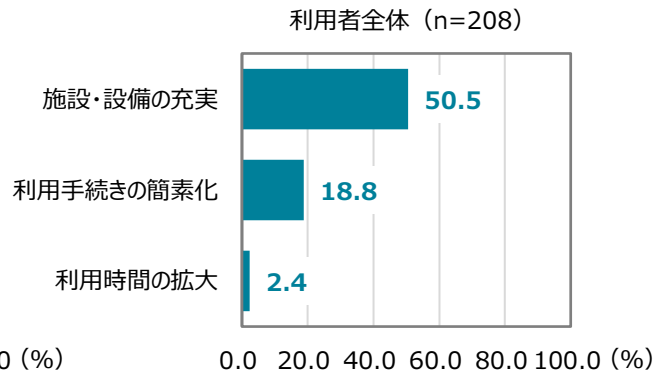
■スポーツ施設の利用料金に対する考え(蒲郡市利用者)



■スポーツ施設に対する要望(蒲郡市成人)  
※複数回答



■スポーツ施設に対する要望(蒲郡市利用者)



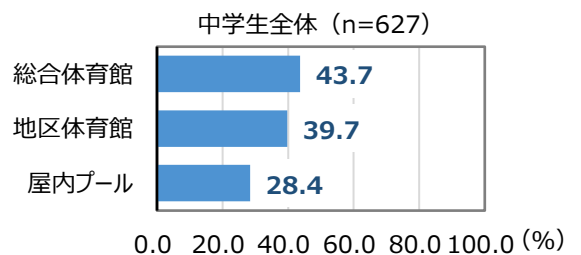
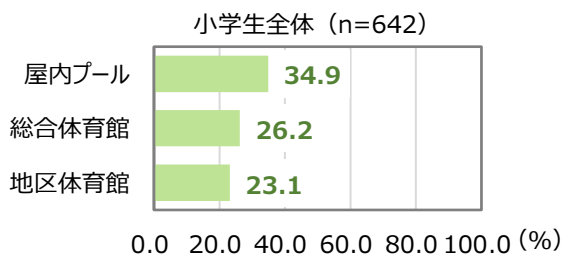
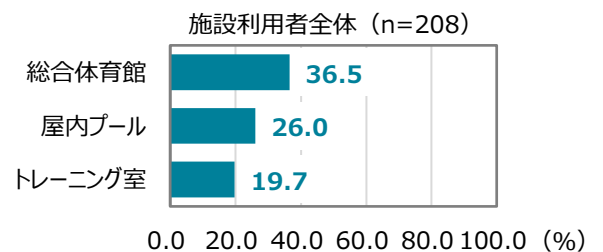
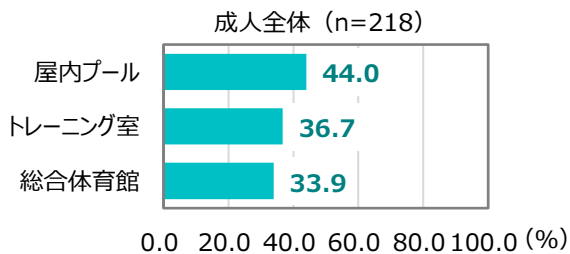
●充実・整備を希望する施設については、成人、利用者とも、「総合体育館」、「屋内プール」、「トレーニング室」が上位3位となっています。

小中学生では、「屋内プール」、「総合体育館」、「地区体育館」が上位3位となっています。

■充実・整備してほしい施設・上位3位(蒲郡市成人・利用者・小中学生)

※複数回答(3つまで)

成人は施設・設備の充実を望む人が対象



- 市のスポーツ推進に関する自由意見では、スポーツ施設や設備に関する意見が多くなっています。
- 具体的には、気軽に利用できる施設や利用手続きの簡素化に関する意見のほか、設備の充実、多目的施設としての総合体育館の設置、屋内プールの整備に関する意見が多くあがっています。

■施設や設備に関する意見(蒲郡市成人) ※自由意見から抜粋

#### 【スポーツ施設の充実】

- ・市民がスポーツをより気軽に楽しみ、健康づくりができる施設があるといい。
- ・もう少し施設を新しくするべきだと思う。
- ・体育以外にも利用可能な多目的施設としての総合体育館があればいい。
- ・プロ、実業団を呼べるような体育館がほしい。
- ・市民プールを再開してほしい。一年中使える屋内プールがほしい。
- ・チームに入っていないなくても利用できるプールやジム、スタジオ（ダンス）がほしい。
- ・高齢者を対象としたスポーツ施設（ゲートボールなどの広場、屋内プール）がもっと充実するといい。
- ・公園グラウンドなど駅の近くに施設があるとよい。
- ・市の中心（駅から近い所）に、野球場や陸上競技場がほしい。
- ・公共交通機関で行けるアクセスのよい施設をつくってほしい。

#### 【スポーツ設備の充実】

- ・トレーニングジム、トレーニングルームを充実してほしい。
- ・市民体育センターの女子トレーニング室が女子専用になっていたので満足だった。
- ・障がいのある人でも利用できるトレーニング室（トレーニングマシン）があるとよい。
- ・公園にストレッチ等ができるような器具を設置し、いつでもだれでも使えるようにしてほしい。
- ・海のビーチにトレーニング設備がほしい。
- ・施設のトイレなどを充実してほしい。

#### 【施設・教室の申し込み、利用環境】

- ・簡単に体育館が借りられるとよい。
- ・蒲郡市のホームページからスポーツ施設の利用状況やイベント情報を発信し、申し込み、問い合わせ等、すべてオンラインでできるようにしてほしい。
- ・市民体育センターなどの利用の仕方がわからない。広報等（できれば Web）でわかると嬉しい。
- ・学校体育施設開放事業がネット予約になって便利になったが、どこかのチームとバッティングするようになり、思うように予約が取れなくなった。

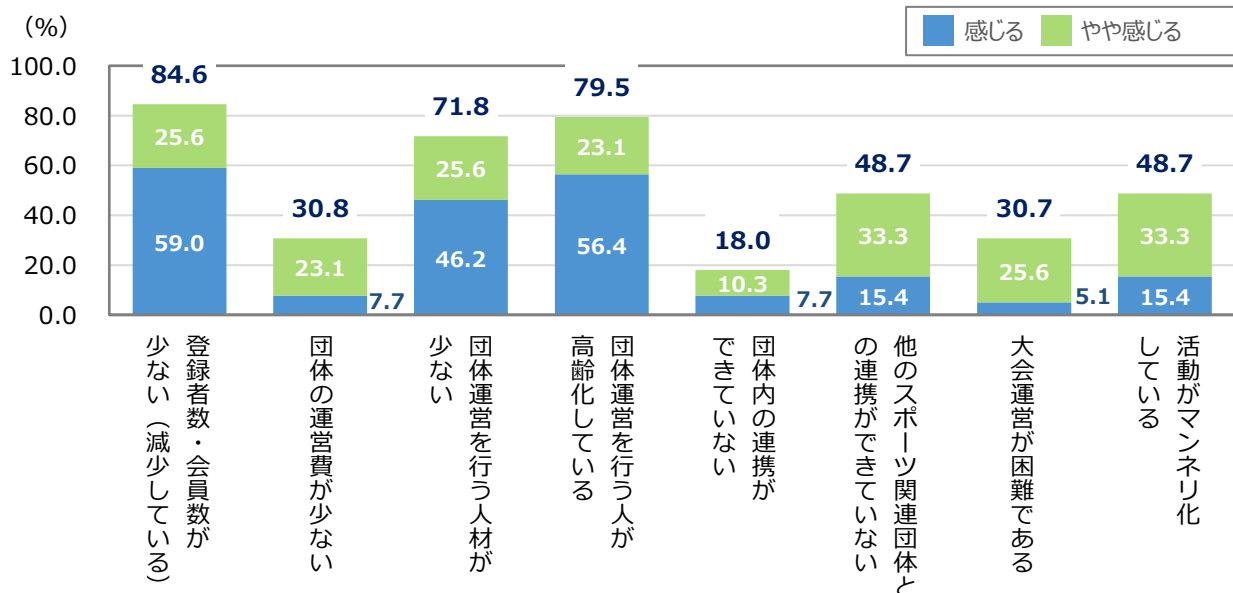
### 3 スポーツ団体ヒアリング結果からみる現状

#### (1)団体の活動状況

●活動上の課題については、「登録者数・会員数が少ない(減少している)」、「団体運営を行う人材が少ない」、「団体運営を行う人が高齢化している」が上位にあがっています。

- ・自由記述による回答では、小学生のスポーツ離れや生活の多様化、スポーツの多様化による若年層の減少が指摘されており、若い世代のスポーツ離れが進んでいることがうかがえます。
- ・50%近くの団体が「活動がマンネリ化している」と回答しており、「他のスポーツ関連団体との連携ができていない」と回答する割合も50%近くとなっています。
- ・自由意見では、役員のみ手不足、設備不足なども課題としてあげられています。

■活動上の課題(活動をする上で感じていること)



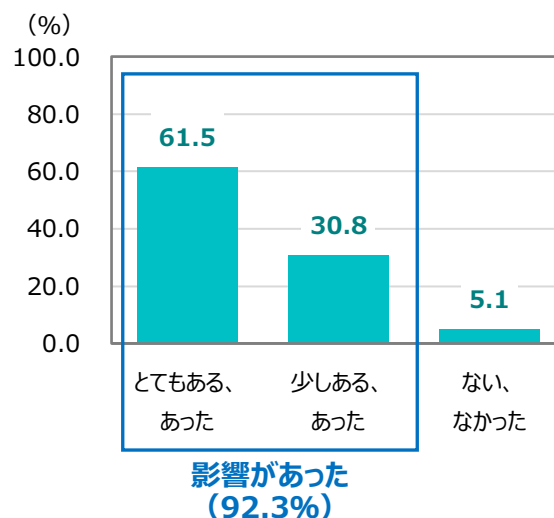
■活動上の課題(活動をする上で感じていること) ※自由意見から抜粋

- ・小学生のスポーツ離れで教室の参加者が年々減少している。
- ・若い世代の加入が少ない。競技人口が減少している。
- ・指導者が高齢化し、一部の人に責任が偏り、世代交代がうまく行われていない。
- ・試合には参加するが、大会運営にはかかわりたくないと感じる人が多いように感じる。
- ・運営をしていくための組織の話し合いをする機会が少なく、会議等の参加者も少ない。
- ・役員改選、新役員の就任促進、役員会での自由な発言が必要。
- ・生活の多様化、スポーツの多様化等により若年者の加入がなく、特に審判員の高齢化が課題である。
- ・競技場の設備が整っていないことで、選手の蒲郡離れが進んでいる。
- ・ボランティアなので、最低限の月謝で活動をしたいが、団員の減少で財政が厳しい。
- ・スポーツの選択肢はあるが、設備が整っていない。

●90%以上の団体が、コロナ禍で団体運営に影響があったと回答しています。

- ・具体的な影響について、自由意見をみると、選手（子ども）のモチベーションの低下や競技人口の減少のほか、子どもの体力低下、運動機能の発達などがあげられています。
- ・自由意見では、活動場所の確保が難しい、感染対策のために準備等に時間がかかってしまうといった意見もあり、活動を行うことに対する負担も大きいことがうかがえます。

■コロナ禍による活動への影響の程度



■コロナ禍による影響 ※自由意見から抜粋

【スポーツ協会】

- ・練習や大会等の中止が続き、選手や指導者のモチベーションの低下がみられた。
- ・2年間はほとんど大会を開催できなかったため、会員同士の親睦、交流などができなかった。
- ・2年間の活動自粛の影響により、競技離れが進んでいる。
- ・コロナ禍で企業チームが撤退している。
- ・日頃の練習会場（中学校体育館等）の確保ができず、活動ができない。

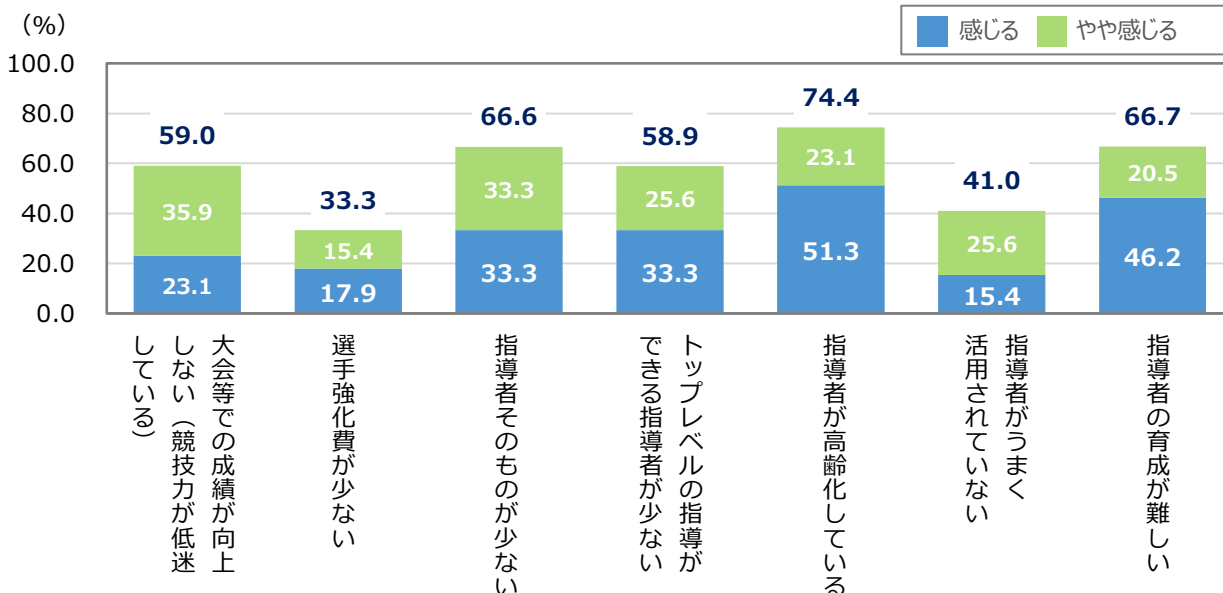
【スポーツ少年団】

- ・やればやっただけ伸びる年代のため、練習時間の短縮は影響が大きい。
- ・休止期間が長く、子どもたちの体力、運動機能の発達に大きな影響があった。
- ・活動できない期間が長く、子どもたちのやる気を削いでしまった。
- ・全員での練習ができなかったこと、試合ができなかったことで、子どもたちのやる気が低下し、モチベーションを保つのに苦労した。
- ・大会が無観客開催になり、親が子どもの試合を観る機会がなかった。
- ・他地区は制限がなかったが、蒲郡市だけは活動ができない期間があった。
- ・感染対策を講じる必要があるため、準備、片付けに時間がかかってしまう。

## (2)競技力の強化について

●競技力強化に関しては、「指導者そのものが少ない」、「指導者が高齢化している」、「指導者の育成が難しい」が上位にあがっており、競技スポーツの人材不足が大きな課題となっています。

■競技力強化に関して感じること



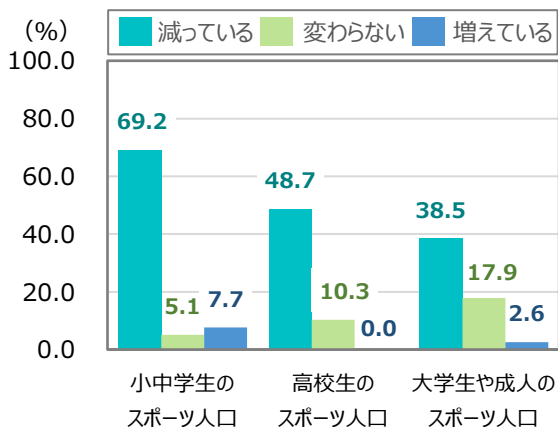
## (3)蒲郡市のスポーツ環境について

●市のスポーツ人口については、「減っている」と感じている割合が高く、特に小中学生のスポーツ人口が減っているという回答が多くなっています。

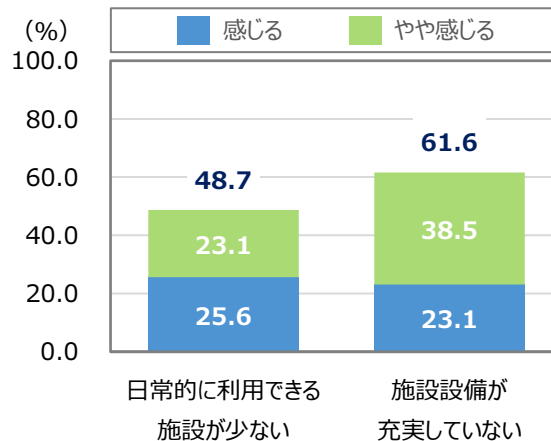
・小中学生の割合が高い理由として、小学校での部活動廃止の影響が大きいと考えられます。

●スポーツ施設について、「日常的に利用できる施設が少ない」と回答する団体は約 49%、「施設設備が充実していない」と回答する団体は約 62%となっています。

■スポーツ人口に対する考え



■スポーツ施設に対する考え

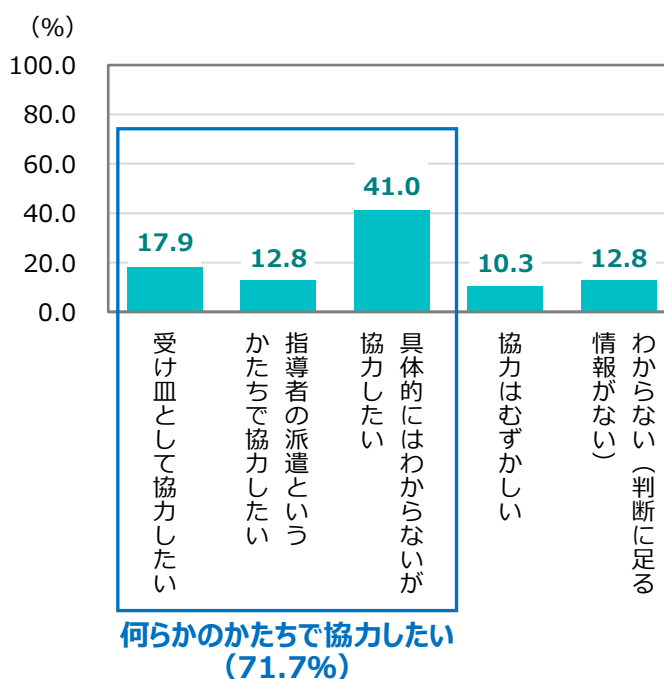




## ■部活動の地域移行に対する考え

●部活動の地域移行に対しては、「具体的にはわからないが協力したい」という回答が最も多く、41.0%となっています。

- ・国の方針として「部活動の地域移行」が示されていますが、70%以上の団体が何らかのかたちで協力したいと回答しています。
- ・「わからない（判断に足る情報が無い）」という回答もみられるため、情報発信を行っていくことが求められます。



●市への要望に対する自由意見では、スポーツを気軽に楽しめる環境づくりや、スポーツをする場の確保、既存の利用基準の見直しに関する意見のほか、部活の地域移行や総合型地域スポーツクラブに対する意見などがあがっています。

### ■市への要望 ※自由意見から抜粋

- ・スポーツ人口の拡大に向けて、小学校からスポーツに対する興味を持ってもらうことが大事だと思う。スポーツ教室などを定期的で開催して、底辺を広げることに取り組んでほしい。
- ・スポーツを実施する場合には場所の確保が大変である。空いているにもかかわらず、学校体育施設開放が使用できないこともある。気軽にスポーツをすることができるよう、システム等を検討してほしい。
- ・少人数でも使用できる施設・設備があってほしい。
- ・小中学校の統廃合を進めることで体育館の数も減り、活動できる場所が減ることが予想される。利用状況をしっかりと把握した上で不足するようであれば、体育館を残したり、地区体育館的な施設を新設したりするなどの対応をお願いしたい。
- ・中学校の部活の地域移行は必要だと考えるが、建前ときれい事で進めると継続性に欠けると思う。実際に携わっている現場の先生方の意見を大事にし、今後も続けていける体制を取ることが大事。予算もしっかりと確保する必要があると考える。
- ・総合型地域スポーツクラブ\*について、現状は本来の設立目的を達成できていない。蒲郡市の人口レベルでは総合型地域スポーツクラブの設置は難しく感じる。市職員には学生時代に関わった競技に積極的に参加してほしい。まずは会員数を増やすことから始めて充実化していきたい。

## 4 蒲郡市の現状と課題のまとめ

### (1)スポーツ習慣の定着化

スポーツは健康づくりや体力の維持向上を図ることに加え、生きがいづくりや仲間づくりにもつながります。また、人生 100 年時代といわれる中、健康寿命の延伸や社会保障費の抑制といった観点からも、スポーツによる日常的な健康づくりが重要になっていますが、本市では、スポーツを実践している人の割合が低く、週 1 日以上スポーツをしている人の割合については、全国、愛知県を大きく下回っています。また、運動不足を感じている人が 80%以上となっており、生涯にわたって継続することができるスポーツ環境を整備していくことが最大の課題となっています。

より多くの市民がスポーツに親しむことができるよう、子どもから高齢者まで、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」気軽に参加できるニュースポーツの推進などを図り、スポーツ習慣の定着化を図ることが必要になっています。

また、障がいのある人もスポーツを気軽に楽しむことができるよう、スポーツ施設のバリアフリー化や参加のしやすさに配慮した活動の充実を図るとともに、広く情報発信を行うことも求められます。



第4章「基本目標 01 スポーツに親しむ機会の創出」に対応

### (2)競技スポーツの推進

本市では、スポーツ協会、スポーツ少年団が幅広い競技分野の取組を行っていますが、生活の多様化、スポーツの多様化等によりスポーツ協会への若年者の加入が少なく、会員数は減少傾向にあります。

また、指導者不足や指導者・審判員の高齢化、運営役員のなり手不足など、競技スポーツをささえる人材の確保・育成も大きな課題となっており、スポーツ協会、スポーツ少年団がより強固な組織としてスポーツの振興に寄与していくことができるよう、支援を行っていくことが求められます。



第4章「基本目標 01 スポーツに親しむ機会の創出」に対応

### (3)ウィズコロナ・ポストコロナの社会におけるスポーツ活動

令和元年度（2019 年度）末から流行が始まった新型コロナウイルス感染症は、これまでの生活様式やスポーツ環境を一変させ、感染症拡大防止の観点から、スポーツイベントや各種大会の中止や延期、参加人数の縮小、体育館などスポーツ施設の利用中止、営業時間の短縮などを余儀なくされました。

ウィズコロナ・ポストコロナの社会においても、感染症対策に留意し、だれもが気軽にスポーツに親しむことができるよう、各種スポーツ教室やイベントなどの様々なスポーツコンテンツのオンライン配信や、デジタルを活用したスポーツの新しい楽しみ方を検討し、普及していくことが求められます。



第4章「基本目標 01 スポーツに親しむ機会の創出」に対応

第4章「基本目標 03 スポーツを通じたまちの魅力の創造」に対応

#### (4)子どものスポーツの場の確保

近年は、少子化の進展や社会情勢の変化等により、教育等に関わる課題が複雑化、多様化し、学校だけでは解決することができない課題が増えており、運動部活動においては、従前と同様の運営体制での維持は難しくなっています。

このような中、令和2年（2020年）9月に文部科学省より「中学校の休日の部活動の段階的な地域移行」が示され、令和4年（2022年）12月に策定された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」においては、地域の実情に応じて可能な限り早期に段階的な移行を行うこととされています。

本市では小学校部活動の廃止、中学校部活動の選択制への移行に加え、学校外の学習時間の増加等により、子どもたちがスポーツをする機会が減少していますが、スポーツの機会の減少は、身体面の発達や運動能力の発達だけでなく、精神面にも影響を与えます。また、生涯スポーツの推進には、子どもの頃からスポーツ習慣を身につけることが大きなカギとなるため、部活動の受け皿を整備し、子どもたちが充実した環境でスポーツに親しむことができるよう、取組を進めていく必要があります。



#### 第4章「基本目標 01 スポーツに親しむ機会の創出」で対応

#### (5)スポーツ施設の充実

本市では、市民体育センターをはじめ、公園グラウンドや文化広場など、屋外、屋内でスポーツを行える場を整備しており、市民体育センター競技場については、令和3年（2021年）9月に大規模リニューアルを実施したところですが、市民アンケート調査や団体ヒアリングの結果では施設・設備の充実に関する意見が多く、新たな施設としては総合体育館、地区体育館、屋内プールを望む人が多くなっています。

また、近年は、スポーツ施設を含む公共施設の老朽化が全国的に大きな課題となっています。本市においても老朽化対策に伴う維持・修繕費や改修費の増大が見込まれており、公共施設を適正に管理していくため、公共施設マネジメント基本方針を定め、機能や配置の適正化や集約化、複合化による施設量の適正化と効率的な運営による将来負担の抑制を図っています。

この公共施設の集約化、複合化には小中学校の統廃合も見込まれていますが、本市のスポーツ施設利用者の約4分の1が学校体育施設開放事業による学校施設の利用となっています。また、市民体育センター及び文化広場の各競技場の稼働率は平日の夜間、休日の日中で9割程度と、利用者にとって非常に予約がとりづらい状況にあります。これらの点を鑑みると、将来的に屋内スポーツの実施場所の確保が困難となる恐れがあり、スポーツ施設の充実は大きな課題となっています。

また、施設の利用環境に対する意見も多くなっており、利用手続きの簡素化や利用基準の見直しなどを進めていく必要があります。



#### 第4章「基本目標 02 スポーツをとりまく環境の充実」で対応

## (6)地域資源を生かしたスポーツの推進

国においてはスポーツツーリズムの更なる推進が目指されており、本市においても、スポーツによる交流人口の拡大やスポーツ施設の有効活用を目的に、スポーツツーリズムの振興を図っていますが、蒲郡の豊かな資源を生かしきれていないといった課題があります。

蒲郡の豊かな自然を生かしたスポーツ環境を整備することは、スポーツツーリズムの推進だけでなく、市民のスポーツ実施率の向上につながると考えられるため、蒲郡の地域資源を生かしたスポーツ施策の展開を図っていくことが求められます。



第4章「基本目標 01 スポーツに親しむ機会の創出」で対応

第4章「基本目標 03 スポーツを通じたまちの魅力の創造」で対応



スポーツ少年団（剣道）



SUP



ニュースポーツ大会（SNAGゴルフ）



夏休みバドミントン教室

## 第3章

# 計画の基本的な考え方



### 1 基本理念

#### 計画の基本理念

はじめよう！つづけよう！つながろう！  
スポーツ in がまごおり

～ スポーツでみんなが笑顔に 蒲郡を元気に ～



スポーツは、私たちが心身ともに健康で豊かな生活を過ごすために欠かせないものであるだけでなく、スポーツを通じた交流の活性化を図ることは、活力に満ちたまちづくりにつながります。

しかしながら本市では、成人のスポーツ実施率が低いということが大きな課題となっています。本計画の基本理念として「はじめよう！つづけよう！つながろう！」という合言葉を掲げていますが、市民一人ひとりがスポーツをはじめ、つづけていくことができるよう、また、スポーツを通じて人と人がつながっていくことができるよう、スポーツを「する、みる」、「ささえる」、スポーツで「つながる」の視点から、施策の推進を図ります。

また、蒲郡は緑の山々と美しい海、豊かな自然に恵まれた三河湾国定公園の中心地にあり、生涯スポーツをはじめ、競技スポーツやレジャースポーツにとっても、素晴らしい環境が整っています。本市の最上位計画である第5次総合計画では、「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち ～ 君が愛する蒲郡～」を将来の都市像として掲げ、こういったまちの魅力を生かして、あらたな魅力と笑顔があふれるまちづくりを目指しています。

市の目指すまちづくりの視点を踏まえ、だれもがスポーツに親しむことができ、健康でこころ豊かに過ごすことができるよう、また、スポーツを通じて地域にいきいきとした交流が広がるよう、恵まれた環境を生かした「蒲郡らしい」スポーツライフの推進とスポーツ環境の整備を図ります。

## 2 基本目標

基本理念の実現に向けて、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」、スポーツで「つながる」の視点から、以下の基本目標を設定し、各基本目標に基づいた施策を推進します。

### 基本目標 01 スポーツに親しむ機会の創出

スポーツを  
する、みる

体力や障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まであらゆる世代の人が、生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」を合言葉に、スポーツをする機会、みる機会の充実を図ります。

特に本市では週1日以上スポーツ実施率が低いという課題があることから、今までスポーツをしてこなかった人にも興味を持ってもらえるよう、気軽にはじめられるニュースポーツの充実や体験イベントの企画などに取り組むとともに、広く情報発信を行います。

また、子どもたちにスポーツを好きになってもらうことが、成人期でのスポーツ習慣の基盤となることから、子どもの頃から様々なスポーツにふれることができる機会の提供やスポーツを通じた健康づくりの推進、次代のアスリートの育成支援など、幅広く取り組みます。

### 基本目標 02 スポーツをとりまく環境の充実

スポーツを  
ささえる

より多くの人々がスポーツに親しむことができる環境を整備するためには、市民が安全・安心にスポーツに取り組める環境づくりが不可欠です。

本市では施設・設備面でのニーズが高くなっていることから、これまでに引き続き施設の適切な維持・管理に取り組むとともに、時代に即した機能の整備を進めます。そのほか、施設等予約システムの機能向上や施設使用手続きの簡素化に取り組むなど、ソフト両面からも取組を推進していきます。

また、「スポーツをささえる」視点では、スポーツ指導者、ボランティアをはじめとした多くの人材の協力が重要になるため、スポーツ協会等と相互協力を図りながら、新たな担い手の確保に取り組みます。

### 基本目標 03 スポーツを通じたまちの魅力の創造

スポーツで  
つながる

スポーツは体力向上や健康増進に効果があるだけでなく、人と人をつなげる役割を果たし、地域の活性化にも大きな効果をもたらします。

本市は海に囲まれていて、温暖な気候であり、自然豊かな風景を楽しむことができるといった大きな魅力があり、スポーツ推進にとって絶好の環境を備えているといった強みがあります。

こうした本市の魅力を生かしたスポーツ大会の開催などにより、これまでスポーツに関心のなかった人がスポーツにかかわるきっかけづくりを行うとともに、取組を広く発信することで、観戦やイベントへの参加のために蒲郡を訪れる人を呼び込み、地域活性化につなげます。

### 3 施策の体系

基本理念

はじめよう！つづけよう！つながろう！ スポーツ in がまごおり  
 ～ スポーツでみんなが笑顔に 蒲郡を元気に ～

基本目標	施策の方向	施策
基本目標1 スポーツに親しむ 機会の創出 (スポーツを する、みる)	▶ 1. スポーツの楽しさや魅力の発信	①スポーツに関する情報発信 ②トップスポーツにふれる機会の創出
	▶ 2. 生涯スポーツの推進	①スポーツに親しむ機会の提供 ②子どものスポーツ活動の推進 ③高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の推進 ④スポーツによる健康づくりの推進
	▶ 3. 競技スポーツの推進	①競技力の向上
基本目標2 スポーツをとりまく 環境の充実 (スポーツを ささえる)	▶ 1. スポーツ環境の整備・充実	①スポーツ施設の整備・充実 ②スポーツ施設の効率的な運営と有効活用 ③総合型地域スポーツクラブの設立支援
	▶ 2. スポーツをささえる人材の育成と活用	①指導者・ボランティアの育成・活用 ②スポーツ関連団体への支援
基本目標3 スポーツを通じた まちの魅力の創造 (スポーツで つながる)	▶ 1. スポーツツーリズムの推進	①地域資源を生かしたスポーツツーリズム
	▶ 2. スポーツを通じた交流の促進	①スポーツイベント・大会などの誘致 ②スポーツを通じた仲間づくりの支援



基本目標

01

スポーツに親しむ機会の創出  
(スポーツをする、みる)

### 1 スポーツの楽しさや魅力の発信

#### 施策① スポーツに関する情報発信

スポーツに親しむ市民を増やすための第一歩として、より多くの市民にスポーツに興味を持ってもらえるよう、多様な媒体やスポーツ推進委員の活動を通じて、スポーツの楽しさや魅力を発信します。

そのほか、市で行うスポーツイベントやスポーツ関連団体の情報をはじめ、市内のスポーツ施設やウォーキングコースなど、スポーツに関する様々な情報を積極的に発信し、市民のスポーツへの興味・関心を高めま

す。  
また、スポーツに関する情報発信においては、幅広い年代に情報が行き渡るよう、SNSの活用をはじめ、より効果的な方策を検討していきます。

主な取組	担当課
SNS、広報がまごおり、ホームページ等を活用した情報発信	スポーツ推進課
団体サークル紹介誌の発行	生涯学習課
魅力的なウォーキングコース、サイクリングコース等の周知	スポーツ推進課 健康推進課 観光まちづくり課



## 施策② トップスポーツにふれる機会の創出

スポーツは自ら行うだけでなく、観戦して楽しむかたちで参加することもでき、「みる」ことがきっかけとなり、スポーツを「する」、「ささえる」ことにもつながっていきます。

市民アンケートの結果を分析すると、スポーツが嫌いと感じている人でも、スポーツ観戦は好きという人も比較的多く、スポーツに興味を持ってもらうきっかけ、スポーツを好きになってもらうきっかけとして、スポーツをみる、ふれる機会の提供が有効であると考えられます。

特に、トップアスリートからスポーツ指導を受けたり、経験談を聞いたりする体験は、スポーツの楽しさや魅力を伝えるためのよい機会であるとともに、子どもたちの夢やあこがれの応援や、スポーツ指導者の技術の向上にもつながります。これまでに引き続き、トップアスリートを招いたスポーツ教室の開催や市内のスポーツ施設を会場としたレベルの高い試合等の観戦機会の提供など、子どもから大人まであらゆる世代の人がトップアスリートにふれる機会の創出に取り組みます。

主な取組	担当課
トップアスリートを招いたスポーツ教室等の開催	スポーツ推進課
三遠ネオフェニックスとの連携事業	スポーツ推進課
プロ野球ウエスタン・リーグの開催	スポーツ推進課



ウエスタン・リーグ会場風景

### 施策① スポーツに親しむ機会の提供

本市ではスポーツの実施率が低いということが大きな課題となっているため、だれもが気軽に、継続的にスポーツに取り組めるよう、スポーツ関係団体やスポーツ施設の指定管理者\*と連携して市民ニーズに応じた魅力あるスポーツ教室を開催します。

特に本市は海や山といった豊かな自然に恵まれており、こういった自然環境の中でスポーツを行うと、より楽しさを感じることができ、スポーツ習慣の形成にもつながるため、蒲郡の自然環境を生かした教室・イベント等を積極的に開催し、市民がスポーツに親しむきっかけづくりを行います。

また、市民アンケートの結果を分析すると、スポーツが好きと感じている人は、嫌いと感じている人よりスポーツ実施率が高い傾向にあります。好きと感じている人でも実施できていない人は約 50%となっています。実施できていない理由としては、忙しくて時間がないことをあげる人が多くなっているため、仕事や家庭に忙しい働き盛り世代、子育て世代がスポーツに参加しやすいよう、多様なライフスタイルに対応した教室・イベントを提供するとともに、ウィズコロナ・ポストコロナにおけるスポーツ推進の視点から、デジタルを活用してスポーツを楽しむ機会が提供できるよう、方策を検討します。

そのほか、令和 8 年（2026 年）に開催が予定されている、第 20 回アジア競技大会及び第 5 回アジアパラ競技大会をきっかけに、市民のスポーツへの関心も高まってくることが期待されるため、より多くの市民がスポーツを「みる」、「ささえる」ことでスポーツに親しめるよう、大会に関する情報を積極的に発信します。

主な取組	担当課
スポーツ推進委員によるニュースポーツ出前講座	スポーツ推進課
ニュースポーツ教室・大会の開催	スポーツ推進課 観光まちづくり課
ウォーキング・サイクリングの推進（各種イベントの開催・支援、コースの周知等）	スポーツ推進課 健康推進課 観光まちづくり課
各種スポーツ大会の開催・支援（市民総合スポーツ大会、三河湾健康マラソン大会、オレンジトライアスロン）	スポーツ推進課
公民館におけるクラブ・サークル活動の支援	生涯学習課
地域団体（老人会等）のスポーツ活動への支援	長寿課

## 施策② 子どものスポーツ活動の推進

愛知県では、スポーツ庁が毎年実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」\*における「体力合計点」が、小学生・中学生の男女全てにおいて低下傾向にあり、ほとんどの種目において全国平均を下回っています。小学生の男子においては7年連続（平成26年（2014年）～令和3年（2021年）の7年間。令和2年（2020年）は新型コロナウイルス感染症対策のため中止）で最下位となっており、子どもの体力の向上は大きな課題となっています。

子どもの時期にスポーツを行うことは、身体の成長・発達に必要な体力や筋力、運動能力を高めるだけでなく、こころの成長にもつながりますが、市民アンケートの結果を分析すると、中学生ではスポーツが好きでありながら、学校の授業や放課以外でスポーツをしていない人は約17%であるのに対し、小学生では約29%となっており、小学校の部活動廃止が少なからず影響していると推測されます。

子どもの頃にスポーツに親しむことは、大人になってからのスポーツ習慣にもつながり、生涯を通じたスポーツ習慣を身につける上で非常に重要であるため、幼少期からスポーツに取り組むことの重要性を広く周知・啓発するとともに、子どもがスポーツの楽しさを体験したり、親子で楽しくスポーツを実践したりする機会の提供を行い、子どものスポーツ習慣の定着に努めます。

また、小学校の部活動が廃止となり、中学校の休日の運動部活動の段階的な地域移行が国の方針として示されている中、スポーツ関連団体と連携し、総合型地域スポーツクラブをはじめとした子どもがスポーツを実践する環境づくりの整備を進めます。

主な取組	担当課
夏休み親子スポーツ教室（バドミントン、水泳、相撲）	スポーツ推進課
ニュースポーツ教室・大会の開催【再掲】	スポーツ推進課 観光まちづくり課
トップスポーツにふれる機会の創出【再掲】	スポーツ推進課
子どものスポーツ活動に関する情報発信	スポーツ推進課
スポーツ少年団活動の支援	スポーツ推進課
中学校運動部活動の地域移行	学校教育課 スポーツ推進課

### 施策③ 高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の推進

高齢者にとってのスポーツは、健康増進や介護予防だけでなく、生きがいや仲間づくりにもつながり、心身の健康づくりにとって非常に大きな役割を果たしています。

また、本市では障がいのある人がスポーツを楽しめる環境が不足しているといった課題がありますが、スポーツの推進を図るには、年齢や障がいの有無にかかわらず、すべての市民が一緒になってスポーツを楽しめる環境づくりが不可欠であるため、多世代が楽しめるニュースポーツの魅力を広く発信し、普及を推進します。同時に、高齢者や障がいのある人が参加しやすいスポーツイベントの実施やバリアフリー対策の推進など、参加環境の整備・改善に取り組みます。

主な取組	担当課
高齢者スポーツ大会の開催	スポーツ推進課
高齢者が元気になる運動推進事業	健康推進課
障がい者のスポーツ機会の創出・交流促進	スポーツ推進課
スポーツ推進委員によるニュースポーツ出前講座【再掲】	スポーツ推進課
ニュースポーツ教室・大会の開催【再掲】	スポーツ推進課 観光まちづくり課



高齢者スポーツ大会

## 施策④ スポーツによる健康づくりの推進

スポーツ基本法の前文において、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠である」と規定されており、市民アンケートの結果を分析しても、ここ1年の間に運動をしている人は、していない人に比べて主観的健康感が高いという結果がでています。

本市では、生活習慣病の予防や健康寿命の延伸に向けて、健康教室や運動指導などの健康づくり施策を展開していますが、働き盛り世代や子育て世代では、忙しいという理由からスポーツをする時間が確保できない人も多く、運動不足を感じている人が多くなっています。運動不足が続くと、高血圧や糖尿病、心臓病といった生活習慣病の発症リスクが高まることが指摘されていますが、市民アンケートの結果では、運動不足を感じながらも運動ができていない人は約67%と、高くなっています。

特に本市では、自動車中心の生活の人が多く、運動不足になりやすい環境にあるため、すべての市民がスポーツを通じて健康でいきいきとした生活を実現することができるよう、スポーツを通じた健康づくりを推進します。

主な取組	担当課
ラジオ体操の普及促進（ラジオ体操交流会、巡回ラジオ体操、ラジオ体操100日チャレンジ）	スポーツ推進課 健康推進課
市民いきいきウォーキング、ルディックウォーキング体験会	健康推進課
各種教室や個別指導等を活用した運動指導	健康推進課
高齢者が元気になる運動推進事業【再掲】	健康推進課
介護予防教室	長寿課
がまごおり健康マイレージ	健康推進課
企業と連携した健康づくり支援	健康推進課



ラジオ体操



市民いきいきウォーキング

### 3 競技スポーツの推進

#### 施策① 競技力の向上

本市では、スポーツ協会が中心となり、競技選手の育成や競技大会の主催・運営など、競技スポーツの推進を図っていますが、競技スポーツの推進はスポーツ参画人口の拡大につながるだけでなく、競技スポーツの推進により、本市で育った選手が全国大会や世界大会で活躍することは、シビックプライド\*の向上や地域への愛着心の醸成につながります。

競技人口の拡大に向け、スポーツ協会等との連携を図り、各種競技スポーツを体験できる機会の創出に努めます。また、スポーツへの関心・意欲が高く、技術力・競技力の向上を目指す子どものため、スポーツ少年団が開催する大会やスポーツ活動に関する情報提供を行うとともに、トップアスリートから直接指導を受ける機会を設けることにより、競技力の向上を図ります。そのほか、全国大会などで活躍できる選手の育成に向け、補助金等の交付により各競技団体の強化策に対する支援を行います。

また、あいちトップアスリートアカデミー（愛知県事業）と連携し、トップアスリートとしての可能性を有する子どもを発掘していきます。

主な取組	担当課
スポーツ協会・スポーツ少年団の活動支援	スポーツ推進課
トップアスリートを招いたスポーツ教室等の開催【再掲】	スポーツ推進課
体育スポーツ活動事業費補助金	スポーツ推進課
全国大会等出場者激励金支給制度	スポーツ推進課



スポーツ少年団（柔道）



スポーツ少年団（卓球）

## 1 スポーツ環境の整備・充実

## 施策① スポーツ施設の整備・充実

市民が自身の年齢や体力に応じて、継続的にスポーツを楽しむためには、スポーツ施設や広場、公園といったスポーツをするための場所の充実が不可欠です。

市民アンケート調査の結果では、大規模大会の開催や多目的施設としての利用が可能な総合体育館、地区体育館の整備に対するニーズが高くなっています。また、本市では、平成 22 年度（2010 年度）に市民プールを廃止したことから、屋内プールの建築に対するニーズも高い状況にあります。

人口減少社会を迎える中、だれもが生涯にわたり快適で安全にスポーツが行える環境の整備に向け、社会情勢や公共施設マネジメントの考え方を踏まえながら、スポーツ施設の計画的な整備を進め、スポーツ施設の量の確保に努めます。あわせて市民ニーズ等の把握に努め、現在は市内では実施ができない種目の施設や設備など、質の充実についても検討を進めていきます。

また、市民が日常的にスポーツに親しめるよう、ウォーキングやサイクリングなどの安全性にも配慮した道路空間の整備に努めます。

主な取組	担当課
スポーツ施設の整備、維持管理	スポーツ推進課
学校体育施設開放事業	スポーツ推進課
公園・児童遊園地、道路等の整備、維持管理	都市計画課 健康推進課 子育て支援課 土木港湾課 道路建設課

## 施策② スポーツ施設の効率的な運営と有効活用

本市では、多様化するスポーツニーズに応えるとともに、スポーツ施設の効率的な運営が行えるよう、指定管理者制度を導入しています。今後も引き続き、指定管理者制度を活用し、民間事業者の持つノウハウや人材等を生かし、自主事業による各種スポーツ教室の実施等の施設の有効活用を促し、利用者のニーズに対応したきめ細かなサービスに努めます。

また、施設の効果的な運用に向けて、施設情報や利用方法等について広く情報発信を行うとともに、利用手続きの簡素化を図るなど、サービスの向上に努めます。

そのほか、市民が身近な場である公民館や学校体育施設を活用し、気軽にスポーツを楽しむことができる機会の提供を行います。学校体育施設開放事業については、小中学校の統廃合により、活動場所の減少が見込まれるため、施設の有効活用を図りつつ、市民ニーズの把握に努め、より効果的な対応を検討していきます。

また、市の施設の有効活用のみではなく、民間スポーツ施設との連携や近隣市町との施設相互利用によるスポーツ活動の場の充実など、限られた施設の効率的な利活用についても検討を行います。

主な取組	担当課
指定管理者制度による魅力的な施設運営	スポーツ推進課
スポーツ施設利用に関する情報の発信	スポーツ推進課

## 施策③ 総合型地域スポーツクラブの設立支援

総合型地域スポーツクラブとは、子どもから高齢者まであらゆる世代の人が、様々なスポーツに親しむことができる総合的なスポーツクラブで、地域住民が主体的に運営する、地域に根ざした新しいタイプのスポーツクラブです。

すべての住民が身近な地域においてスポーツを気軽に行うことができるよう、本市においても生涯スポーツを中心とした総合型地域スポーツクラブの設立を支援し、年齢や障がいの有無にかかわらず、だれもが様々なスポーツに親しむことができる機会、活動を通じて住民が交流を図る機会を提供します。

また、総合型地域スポーツクラブの運営にあたっては、運営を担う人材の確保や指導者の確保が全国的な課題となっているため、持続可能な方策を検討します。

主な取組	担当課
総合型地域スポーツクラブの設立支援	スポーツ推進課



## 2 スポーツをささえる人材の育成と活用

### 施策① 指導者・ボランティアの育成・活用

スポーツの振興を図る上で、スポーツをする場所や機会だけではなく、スポーツの楽しさや技術を伝える指導者や、スポーツ大会等におけるボランティアなど、スポーツを「ささえる」人材の育成も欠かせないものとなっています。

指導者の確保・育成においては、スポーツ推進委員の役割について理解促進を図るとともに、実技指導や地域のスポーツ活動の推進役としての資質向上に努めます。

そのほか、本市には、市民ボランティアによる講師の派遣制度「GCSL 蒲郡市文化・スポーツリーダー登録制度」\*があり、サークルや団体に対して講師の紹介・派遣を行っていますが、文化部門に比べてスポーツ部門の派遣実績は少なくなっています。今後は制度の周知を図るとともに、市民向け教室やスポーツイベントで指導を行うなど、人材の効果的な活用方法を検討します。

また、アジア競技大会をボランティアの機運醸成の好機ととらえ、市民に情報を広く発信するとともに、ボランティアを体験する機会を提供し、スポーツによる感動をともに分かち合うことで継続的にボランティア活動に参画する人材の確保を目指します。

主な取組	担当課
スポーツ推進委員の活動支援	スポーツ推進課
GCSL 蒲郡市文化・スポーツリーダーの育成	スポーツ推進課
スポーツをささえるボランティアの確保・育成	スポーツ推進課
健康づくりリーダー、いっしょにやろまい会、介護予防サポーターの活動支援	健康推進課

### 施策② スポーツ関連団体への支援

本市では、スポーツ協会が地域の競技スポーツ振興の中心的役割を担っていますが、登録者数や会員数の減少、団体運営を行う人材の不足などが課題となっています。

また、学校施設等を活用してスポーツやレクリエーションを行うサークル活動団体も地域のスポーツ振興には欠かせない存在です。自発的なスポーツ活動が持続的に行われるようにするために、新たにスポーツ団体を立ち上げたり、大会を開催しようとしていたりしている人に対し、団体や大会運営に関する支援を行うとともに、大会をささえる審判等の人材確保・育成に関する情報提供等を行います。

あわせて、これまで本市のスポーツ振興をささえてきた各団体がそれぞれの特性を生かして活動を続けていくことができるよう、活動場所の提供や活動のPR などにより、活動に対する支援を行います。

主な取組	担当課
各種スポーツ団体に対する支援	スポーツ推進課

基本目標  
**03**

## スポーツを通じたまちの魅力の創造 (スポーツでつながる)

### 1 スポーツツーリズムの推進

#### 施策① 地域資源を生かしたスポーツツーリズム

本市の温暖な気候、海や山といった豊かな自然資源を生かして、SUP、ウェイクサーフィン、シーカヤックといったマリンスポーツ体験の機会を提供するとともに、市内でできるマリンスポーツを紹介するリーフレットやVR動画を作成し、情報を発信しています。

また、本市には、三谷温泉、蒲郡温泉、形原温泉、西浦温泉といった4つの温泉地やテーマパーク、水族館といった観光資源にも恵まれており、スポーツの参加や観戦を目的として地域を訪れ、観光を楽しむ「スポーツツーリズム」を推進する絶好の環境が整っています。

ウィズコロナ・ポストコロナの視点からもアウトドアスポーツが注目されている中、こういった地域の資源を最大限に生かし、本市が進める観光振興やシティセールス\*の取組と連携して、スポーツツーリズムを推進していきます。

主な取組	担当課
スポーツツーリズム推進事業	スポーツ推進課 観光まちづくり課
蒲郡の自然を生かしたウォーキングコース等の整備	観光まちづくり課



## 2 スポーツを通じた交流の促進

### 施策① スポーツイベント・大会などの誘致

本市の豊かな自然や豊富な観光資源は、スポーツイベントやスポーツ大会、スポーツ合宿などを誘致するための大きな強みであり、平成 29 年（2017 年）には本市でセーリングワールドカップが開催されています。令和 8 年（2026 年）には愛知県において、第 20 回アジア競技大会及び第 5 回アジアパラ競技大会が開催されることとなっていますが、本市はセーリングの競技会場に仮決定しています。

スポーツツーリズムを進めることは、スポーツによる交流人口の拡大、地方創生に大きく寄与するほか、スポーツ大会やスポーツイベントを通じて本市を訪れる人が増えることで、スポーツ施設の有効活用を図ることができるといったメリットもあるため、観光団体やスポーツ協会と連携し、スポーツイベントやスポーツ大会、スポーツ合宿の誘致に取り組むとともに、誘致に関する情報や本市の魅力を市外に広く発信します。

また、スポーツイベントやスポーツ大会を通じて本市を訪れてくれた人と市民が交流できる機会が提供できるよう、方策を検討します。

主な取組	担当課
MICE 助成金制度の活用	観光まちづくり課
アジア競技大会・アジアパラ競技大会の機運醸成	スポーツ推進課
ITU トライアスロン大会の開催支援	スポーツ推進課
三河湾健康マラソン大会の開催	スポーツ推進課



三河湾健康マラソン大会



トライアスロン大会

## 施策② スポーツを通じた仲間づくりの支援

スポーツは心身を鍛えたり、健康を維持・増進したりするといったことのほか、スポーツを通じて楽しみや喜び、感動を得ることができるということが大きな魅力になっています。また、スポーツを推進することは、「する」、「みる」、「ささえる」といったそれぞれの側面からスポーツに参加した人を仲間として「つなげる」力があります。そして人と人がつながることは、地域の活性化につながります。

スポーツに参加した人がスポーツを通じて仲間づくりができるよう、市民総合スポーツ大会をはじめとしたスポーツ大会・イベントのほか、公民館でのクラブ・サークル活動や、地域団体におけるスポーツ活動を推進するとともに、スポーツを通じた交流の機会の提供に取り組みます。

主な取組	担当課
スポーツ大会・イベントの開催・支援（市民総合スポーツ大会、三河湾健康マラソン大会、オレンジトライアスロン）【再掲】	スポーツ推進課
公民館におけるクラブ・サークル活動の支援【再掲】	生涯学習課
地域団体（老人会等）のスポーツ活動への支援【再掲】	長寿課
スポーツ施設における交流の場の確保	スポーツ推進課



ニュースポーツ（スカットボール）



ニュースポーツ大会（モルック）



## 1 計画の推進体制

本計画の推進にあたって、市民や市内外の様々なスポーツ団体や地域団体、民間事業者、教育機関などが互いに連携を図り、それぞれの強みを生かして主体的にスポーツ推進の担い手として取り組んでいくことが必要不可欠です。

本計画の目指す社会の実現に向けては、各主体が下記のような役割を担っていくことが求められます。

### (1)市民の役割

それぞれの年齢や体力にあわせ、スポーツを「する」ことや、スポーツを「みる」ことにより、スポーツを日常生活に取り入れることが期待されます。特にスポーツを「する」ことは、生きがいづくりや心身の健康づくりにつながるため、積極的な参加が期待されます。

また、市や地域で行われるスポーツ大会やスポーツイベントを楽しむだけでなく、ささえ手であるスポーツボランティアとしての積極的な参画が期待されます。

### (2)地域団体の役割

それぞれの活動の中にスポーツを取り入れるなど、市民が身近な場で気軽にスポーツに親しむ機会を提供し、スポーツを通じた地域交流を推進する役割が期待されます。

### (3)スポーツ団体の役割

各団体の自主的なスポーツ活動を通じて、市民がスポーツに親しむ機会を提供するとともに、競技スポーツの普及や競技人口の拡大、競技力の向上などを推進する役割が期待されます。

また、団体間の連携や交流を促進することによる、人と人との新たなつながりづくりが期待されます。

### (4)スポーツ推進委員の役割

地域におけるスポーツ活動のリーダーとして、市民に対し、スポーツの楽しさの啓発や実践のきっかけづくりを行うこと、指導者としての知識や技術の習得の向上に努めることが期待されます。

## (5)園・学校の役割

園や学校の活動を通じて、児童生徒の体力の向上やスポーツ習慣の形成を図る役割が期待されます。

また、小中学校は学校体育施設の開放により、市民が身近な場所でスポーツ活動が行える環境を提供することのほか、児童生徒が地域でスポーツをすることができるよう、地域との連携を図ることが期待されます。

## (6)民間事業者の役割

民間事業者が持つ知識や情報、ノウハウなどの資源を生かして、魅力のあるスポーツイベントやスポーツプログラムの実施を通じ、市民のスポーツに対する関心を高め、スポーツ実施率の向上に寄与することが期待されます。

## (7)蒲郡市の役割

本計画がより多くの市民に理解され、スポーツ実施率の向上につながるよう、計画の周知に取り組みます。

また、スポーツ推進課が中心となって、各関係課と連携を図り、スポーツ施設環境の充実や、「蒲郡らしさ」を生かしたスポーツの推進、スポーツを通じた活力あるまちづくりに取り組みます。

そのほか、県や近隣市町等との連携を図るなど、市のスポーツ環境の整備について多面的に検討していきます。

# 2 計画の進捗管理

## (1)進捗管理体制

計画の進捗管理については、PDCA サイクル\*の考え方を基本とし、毎年度、庁内関係各課に対して施策に関する調査を行い、取組の進捗状況等を把握し、事業内容の改善を図ります。また、計画の最終年度には、本計画の基本目標ごとに設定した成果目標の達成度を測り、取組状況の評価を行い、次期計画における施策の検討につなげます。



## (2)成果目標

本計画で示す施策の取組状況の進捗を評価するため、以下の成果目標を設定します。

### 計画の最終目標

指標	現状値	目標値 (R9年度)
週1日以上スポーツをする成人の割合	22.8% (R3年)	50%

### プロセス目標

分野	指標	現状値	目標値 (R9年度)
基本目標1 スポーツに 親しむ機会 の創出  スポーツを する、みる	スポーツ施設利用者数	291,713人 (R3年度)	520,000人
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において全国平均を上回っている種目の割合	32種目中 1種目 (R3年度)	32種目中 4種目
基本目標2 スポーツをとりまく 環境の充実  スポーツを ささえる	スポーツ施設の整備・充実の満足度※	-0.56 (R3年)	0
	総合型地域スポーツクラブの具体化	-	具体化
	スポーツ指導や支援活動を行う市民の割合	4.0% (R3年)	10.0%
基本目標3 スポーツを通じた まちの魅力の創造  スポーツで つながる	スポーツ合宿の受入件数 (スポーツ推進課受付分)	13件 (R3年度)	20件
	大規模スポーツイベントの誘致件数 (本市が誘致した件数)	0件 (H30年～ R4年)	延べ3件 (計画期間中)
	市民総合スポーツ大会の参加者数	1,313人 (R3年度)	6,500人

※スポーツ施設の整備・充実の満足度

市民アンケート調査において、「スポーツ施設の整備・充実」の満足度に対する回答に対して以下のように得点を付与し、満足度を点数化しています。

選択肢	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満
得点	2点	1点	0点	-1点	-2点

満足度点数計算 = (2点×「満足」と回答した人数) + (1点×「やや満足」と回答した人数) + (0点×「どちらとも言えない」と回答した人数) + (-1点×「やや不満」と回答した人数) + (-2点×「不満」と回答した人数) / 回答者数



## 資料編



### 1 蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

#### (設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条第1項の規定に基づき、蒲郡市の特性を生かしたスポーツを推進する施策の方針として蒲郡市スポーツ推進計画（以下「計画」という。）を策定するため、蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (所掌事務)

第2条 委員会は前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について、協議するものとする。

- (1) 計画の策定に関する事項
- (2) その他計画の策定上必要と認める事項

#### (組織)

第3条 委員会は、委員10名以内で組織する。

2 委員は次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) スポーツ推進関係団体の代表者
- (2) その他教育委員会が必要と認める者

#### (任期)

第4条 委員の任期は、当該委員の委嘱の日から計画の策定が終了する日までとする。

#### (委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長が指名した者とし、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

#### (会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長が会議の議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

#### (庁内検討会)

第7条 委員会に、計画の策定に関する検討事項に係る内容等の調整を行うため、庁内検討会を置く。

2 庁内検討会は、別表に掲げる課の長をもって構成する。

3 庁内検討会に座長を置き、座長は教育委員会スポーツ推進課長をもって充てる。

4 座長は、庁内検討会の事務を掌理し、その経過及び結果を委員会に報告する。

#### (庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会スポーツ推進課において処理する。

#### (雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が別に定める。

#### 附則

#### (施行期日)

1 この要綱は、令和4年6月1日から施行する。

#### (この要綱の失効)

2 この要綱は、計画の策定の日限り、その効力を失う。



別表（第7条関係）  
（庁内検討会）

部	課（公所）
健康福祉部	子育て支援課
	長寿課
	健康推進課
産業振興部	観光まちづくり課
都市開発部	都市計画課
教育委員会	教育政策課
	学校教育課
	生涯学習課
	スポーツ推進課

## 2 蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会名簿

No.	役職	氏名	所属
1	委員長	吉見 元孝	蒲郡市スポーツ協会 会長
2	副委員長	横田 倉伸	蒲郡市スポーツ推進委員会 委員長
3	委員	吉見 千津子	蒲郡市スポーツ協会 副会長
4	委員	倉橋 君子	蒲郡市スポーツ推進委員会 副委員長
5	委員	福井 正実	蒲郡市スポーツ少年団本部 本部長
6	委員	宮本 勝英	蒲郡市高齢者スポーツ推進連絡会 会長
7	委員	野々部 利夫	蒲郡市ラジオ体操連盟 理事長
8	委員	苅田 佐代子	愛知県健康づくりリーダー蒲郡支部 支部長
9	委員	杉浦 めぐみ	蒲郡市社会教育審議会
10	委員	尾崎 佳孝	蒲郡市立小中学校長会

順不同、敬称略。

### 3 計画策定の経過

年	月日	内容
令和4年 (2022年)	1月～2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民アンケート調査の実施 一般市民調査、小学生調査、中学生調査、利用者調査</li> </ul>
	7月13日(水)～ 7月31日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スポーツ団体ヒアリングの実施</li> </ul>
	7月27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会庁内検討会 ・蒲郡市スポーツ推進計画の策定について ・市民アンケート結果の報告</li> </ul>
	8月2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会 ・蒲郡市スポーツ推進計画の策定について ・市民アンケート結果の報告</li> </ul>
	9月26日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会庁内検討会 ・蒲郡市スポーツ推進計画骨子案の検討</li> </ul>
	10月12日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会 ・蒲郡市スポーツ推進計画骨子案の検討</li> </ul>
	11月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第3回蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会庁内検討会 ・蒲郡市スポーツ推進計画素案の検討</li> </ul>
	12月6日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第3回蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会 ・蒲郡市スポーツ推進計画素案の検討</li> </ul>
令和5年 (2023年)	1月6日(金)～ 2月6日(月)	パブリックコメントの実施
	2月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第4回蒲郡市スポーツ推進計画策定委員会 ・パブリックコメントの結果報告 ・蒲郡市スポーツ推進計画最終案について</li> </ul>

## 4 用語解説

### ア行

#### 【ICT、IoT】

ICTとは、Information and Communication Technology（情報通信技術）の略称です。IT（Information Technology（情報技術））とほぼ同義ですが、ITは「情報技術を取り入れること」自体を意味するのに対し、ICTは「通信技術を使ったコミュニケーション」という意味合いが強くなっています。

IoTは、Internet of Things（モノのインターネット）の略称で、インターネットに接続されていなかったモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドと接続して相互に情報交換をする仕組みのことを意味します。

#### 【一億総スポーツ社会】

「第2期スポーツ基本計画」で掲げられた目標で、すべての国民がスポーツに携わることで健康長寿社会の実現を目指すものです。

#### 【SDGs】

平成13年（2001年）に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された令和12年（2030年）までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

SDGsでは、「誰一人取り残さない」を合言葉に、17のゴールと169のターゲットが設定されています。

### カ行

#### 【健康寿命】

平成12年（2000年）に世界保健機関（WHO）が提唱した集団の健康状態を表す健康指標の一つで、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことです。

### サ行

#### 【GCSL 蒲郡市文化・スポーツリーダー登録制度】

蒲郡市で実施しているボランティア登録制度で、昭和51年（1976年）に発足しています。登録された方はGCSL 蒲郡市文化・スポーツリーダーとして、それぞれの趣味・特技などを生かして、市民の皆さんの生涯学習活動やスポーツ活動の支援を行っています。

#### 【指定管理者】

公の施設の管理を民間事業者が担う仕組みのことを「指定管理者制度」といい、指定管理者とはその管理を任された民間事業者のことを指します。

指定管理者制度は、公共施設をより効果的・効率的に管理するとともに、民間の能力を活用して、住民サービスの向上や経費の節減等を図ることを目的とした制度です。

## サ行

### 【シティセールス】

自治体がまちの魅力や個性などを市内外に PR し、売り込んでいくことによって、まちの知名度やイメージを上げていくことです。

### 【シビックプライド】

市民が都市に対して持つ「愛着」や「誇り」のことを指す言葉で、地域に対する愛着だけでなく、積極的に地域にかかわり、地域をよくしていこうとする、「地域住民一人ひとりがまちづくりに対して持つ責任感」を意味しています。

### 【人生 100 年時代】

100 歳まで人生が続くのが当たり前となる時代を意味する言葉です。人生 100 年時代では、これまでの「教育 → 仕事 → 引退」という 3 つのステージから、一人ひとりが多様な人生を生きるといった、「マルチステージ」の人生に移行していくとされています。

### 【スポーツツーリズム】

スポーツを観戦したり参加したりすることを目的とした旅行・観光を指す言葉です。平成 23 年（2011 年）に観光庁によって取りまとめられた「スポーツツーリズム推進基本方針」では、スポーツツーリズムは、「観る」、「する」、「支える」ための旅行そのものや周辺地の観光に加え、地域内外のスポーツを「観る」、「する」、「支える」人々との交流や旅行者がスポーツを楽しむことができる環境の整備、国際競技大会の誘致や開催、合宿の誘致が含まれるとされています。

### 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

児童生徒の体力・運動能力、運動習慣などの状況を把握し、その改善に役立てることを目的に、スポーツ庁が全国の小学 5 年生と中学 2 年生を対象に行っている体力・運動能力を評価する新体力テスト（握力、50m 走などの 8 種目）と運動頻度や運動時間などの生活習慣のアンケート調査です。

### 【総合型地域スポーツクラブ】

学校体育施設や公共スポーツ施設といった地域のスポーツ施設を拠点にして、地域住民が自ら運営委員会を組織し主体的に運営するスポーツクラブのことです。一つの種目だけでなく多様なスポーツ種目を楽しむことができるといった特徴を持っています。

### 【Society5.0】

平成 28 年（2016 年）に閣議決定された「第 5 期科学技術基本計画」の中で提唱された、日本が目指すべき未来社会のことで、AI や IoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな社会の姿のことです。「第 5 期科学技術基本計画」では、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と定義されています。

## タ行

### 【地域共生社会】

平成 28 年（2016 年）6 月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」で示されたビジョンで、子どもや高齢者、障がいのある人を含め、地域のあらゆる住民が地域に主体的に参画し、ともに支え合いながら自分らしく活躍できる地域社会のことを指します。

国においては、「制度・分野ごとの『縦割り』や、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」と定義されています。

## ナ行

### 【ニュースポーツ】

「いつでも、どこでも、だれにでも」気軽に参加できるように、これまでのスポーツをアレンジしたり、新しく考えたりしたものです。

ニュースポーツは、専門的技術や経験がなくても子どもから高齢者まで幅広い年代が参加できる、障がいの有無にかかわらず参加できるという特徴があります。

## ハ行

### 【ビッグデータ】

IT 技術の進歩に伴って集積されていく、膨大なデジタルデータのことを指します。

総務省の「情報通信白書平成 29 年版」では、「デジタル化の更なる進展やネットワークの高度化、またスマートフォンやセンサー等 IoT 関連機器の小型化・低コスト化による IoT の進展により、スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータ」と定義されています。

### 【PDCA サイクル】

PDCA は、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字をとったもので、この 4 つの段階を循環的に繰り返し行うことで、取組の改善・効率化を図る手法のことです。

### 【フレイル】

加齢により身体機能や認知機能が徐々に低下してきたときにみられる状態のことで、介護を要する状態（要介護状態）の一手手前の段階のことを指しています。

## ラ行

### 【レガシー】

「遺産、先人の遺物」を意味する言葉です。

## 蒲郡市スポーツ推進計画

発行：蒲郡市（令和5年（2023年）3月）

編集：蒲郡市教育委員会スポーツ推進課

〒443-0034

蒲郡市港町17-17 蒲郡市生命の海科学館内

TEL：0533-66-1222（直通） FAX：0533-66-1199